

学 修 要 覧

(学 部 編)

政策科学専攻
2025年度入学者

政策科学部

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類諸課題の解明に進進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018年3月2日制定

I. 政策科学部の教育理念と人材育成目的

1. 政策科学—それは、時代が求める新しい学問	4
2. 問題指向の学問	4
3. 実践指向の学問	5
4. 政策科学部の人材育成目的、教育課程編成・実施方針、学位授与方針	7
5. キャリア創造の学びと政策科学—「学ぶこと」と「実践すること」	8
6. 世界に羽ばたくバイタリティを身につけるための学び	8

II. 教育課程の編成と履修概要

1. 学位取得（卒業）について	12
1. 1 科目区分ごとの卒業に必要な単位	12
1. 2 卒業見込証明書発行基準	12
1. 3 セメスターごとの登録上限単位数	13
2. 政策科学部のカリキュラムについて①	14
2. 1 政策科学 (PLC) 演習科目	14
2. 2 学術俯瞰科目 (MLC) / Meta-Learning Courses	17
2. 3 政策科学科目 (PLC) / Policy Learning Courses	22
2. 4 政策英語科目 (EPS) / English for Policy Science	24
2. 5 R+科目	26
2. 6 自由科目	27
2. 7 政策科学部学部則	27
3. 政策科学部のカリキュラムについて②	29
3. 1 カリキュラム表	29
3. 2 カリキュラムツリー	31
3. 3 カリキュラムマップ	32
3. 4 履修イメージ	36
3. 5 科目概要	37

III. 学びの支援・援助制度について

1. ライティング・ヘルプデスク	56
2. 学生への援助制度について	56
3. 政策科学会	57
4. シラバス	57
5. 団体受験について	58
6. Beyond Borders Plaza (BBP) について	59

IV. 希望者履修科目・学部横断プログラム

1. 行政政策プログラム (Public Administration Program)	62
2. 海外留学について	62
3. 学部の交換留学制度	64
4. 大学間単位互換制度	65

V. 大学院進学・資格取得

1. 大学院進学について	68
2. 政策科学部で取得できる資格（社会調査士）	69

【付録】 CEFR Can-Do-List	71
-----------------------	----

I. 政策科学部の教育理念と人材育成目的

1. 政策科学－それは、時代が求める新しい学問
2. 問題指向の学問
3. 実践指向の学問
4. 政策科学部の人材育成目的、教育課程編成・実施方針、学位授与方針
5. キャリア創造の学びと政策科学－「学ぶこと」と「実践すること」
6. 世界に羽ばたくバイタリティを身につけるための学び

1. 政策科学—それは、時代が求める新しい学問

政策科学部が開設されたのは1994年のことです。1990年代は、バブル経済が崩壊したあとの時代であり、政治、行政、経済など様々な分野で解決すべき問題が山積し、それまで欧米諸国への「キャッチアップ（追いつき追いこせ）」と経済成長を目標にひた走ってきた日本に、新たな指針の発見を迫った時代でした。

日本社会にとっての新しい指針の発見—これは、東日本大震災を経た今こそいっそう問われねばならない大きな問題です。この大きな問題は、複雑で総合的な性格をもっています。ボーダレスの時代あるいはグローバル化の時代と言われるように、国内問題と国際問題の間に区別をつけることが難しくなっています。環境汚染の問題は国境を超えて拡がり、日本から遠く離れた地域の紛争や戦争が国会での論戦の主題となっています。ここで大事なことは、私たちの世界、私たちの時代に起こっている様々な問題が、お互いに関連しあい、影響しあっているということです。戦争、災害、環境、飢餓、高齢化、雇用、犯罪—どの問題も放置するわけにはいきません。これらの問題の背後には苦しんだり、悲しんだり、悩んだりしているたくさんの人びとがいるからです。その苦しみ、悲しみ、悩みを少しでも和らげるためにはどうしたらよいのでしょうか。

そうした問題を理解するためには、複眼的で総合的な視野が必要です。広い視野をもって現代世界、現代社会の問題を理解し、その解決を展望し時代を構想できる人材が必要です。そのような政策実践と政策構想の力を備えた人材を育成するために生まれたのが政策科学部です。

2. 問題指向の学問

政策科学は問題指向の学問と言われます。これはどういう意味でしょうか。そう難しい話ではありません。

私たちの身のまわりには様々な問題があります。そして、その問題にどう対処し、これをどう解決すればよいのでしょうか。問題には個人的なものあれば、社会的なものもあります。「今月はお金がたりない」とか「成績が思うようにあがらない」とか「アルバイト先がみつからない」とか—これは個人的な問題です。問題とは、「困っている」とか「苦痛を感じている」とか「不安である」とか、そういった状況のことを言います。政策科学が扱うのは、社会的な問題です。つまり、社会の中に何か共通のことがらで「困っている」、「苦痛を感じている」、「不安である」といった状況にある人びとが複数いる事態のことを言います。

問題に対処するというのはどういうことでしょうか。個人的な問題の場合には、新聞や雑誌によく出ている「人生相談」のコーナーがよい例になります。悩みや問題を抱えた人がいまどんな状況にあるのかを正確に知ることが人生相談の出発点です（事実の認識）。そして、どうしてその困った状況に陥ったのかを探ります（原因の探求）。こうして相手の事情を理解したあとで、助言やアドバイスを伝えます（解決策の提示）。

社会的な問題を解決する場合もこれとよく似た推理をします。共通の悩みや苦しみをもった人びとについて、正確な事実を認識し、悩みや苦しみの原因を調査し、そのような状況を克服するための方法を助言します。これら一連の作業を政策分析あるいは政策提言と呼びます。政策科学は、このような政策分析と政策提言を行うための学術研究のことです。政策科学が「問題指向の学問」と呼ばれるのはそのためです。

ただし、個人の問題と社会的な問題とでは大きく異なる面もあります。個人の問題を解決するときでも、いろいろ葛藤することがあります。「成績が思うようにあがらない」—ならば、勉強時間を増やすなどの手だてが考えられます。しかし、観たい映画がある、サッカーの試合を観戦したい、コンサートに行きたい、どうしよう…。社会問題の場合は、この葛藤がもっと複雑になります。

世界に暮らす人びとは、みな同じことを考え、願い、求めているわけではありません。利害が対立したり、価値観（大切だと思うことがらの優先順位）が違っていたり、実に様々です。美しい自然環境の中で暮らすことが最高の人生だと考える人もいれば、都心で便利な消費生活を送ることが幸福だと考える人もいます。ですから、全ての人びとが同じ程度に、同時に満足できるような解決策というのは、なかなか見つからない—これが社会的な問題の難しさであり、政策科学という学問が必要とされる理由でもあります。

3. 実践指向の学問

3.1 問題解決の知識

社会には様々な問題があります。そうした問題について勉強し、知識も身につけたとします。しかし、政策科学の学びはそれで完結するわけではありません。政策科学の学びには次のステップがあります。

問題を解決するためには、その問題がどのようなものであり、何が原因でその問題が起こっているかを知らなければなりません（問題の認識）。ある商品の売上が落ちている—なぜだろうと考えます。これが原因の探求です。どこかその製品に使いにくいところ、不便なところがあるのかもしれません。他社の類似製品と較べて価格が高いのかもしれません。あるいはまた、消費者はもうその製品に興味をもたなくなってしまったのかもしれません。おそらく私たちは、何が原因なのかを過去にさかのぼって調べるでしょう（調査）。そして、売上が落ちている原因がわかったら、その原因を取り除くためにどうすればよいのかを考えるでしょう（解決手段の探求と選択）。

生産コストをおさえて製品価格を下げる、デザインを一新する、機能を充実させる、もっと使いやすくする、（消費者が興味をもたなくなってしまったのであれば）思い切ってその製品の生産をやめてしまう。いずれも、売上が落ちているという問題を解決するための方法であり手段です。

問題の認識から、原因の探求、解決手段の探求と選択までのこのような一連の知的営みが、政策科学における「知る」あるいは「学ぶこと」ということです。そして「何かを知る」ことは「何かをする」とことと表裏の関係にあることが多いのです。美味しい料理をつくるために、一生懸命、料理の本を読む。資産を増やすために、株式市場や金融商品のことを勉強する。すぐれない体調をよくするために、健康によい食事や食品のことを調べる。やりたい仕事につくために勉強する。全て、「知る」ことは「する」ことに結び付いています。政策科学では「する」の部分が「問題の解決」「問題解決へ向けた前進」に当たります。政治や行政や法律、経済の動きや経営戦略、都市問題や環境問題、国際社会の動き、最新の情報技術—これらの知識を問題解決に「活かす」ことを目標にすることが政策科学の学びの特徴です。

3.2 問題解決の意欲

ときに何となく気持ちが沈んでいたりして、何もやる気が起きなくなってしまうことはありませんか。きっと誰にでもこういうことはあるでしょうね。そんなときは、本当に何もする気持ちになれません。宿題があっても、まあいいやなんて思ってしまったたり、友達が誘いにきても、面倒なので断ったり。こういうときは、特に何とかしなければならない問題があっても、放っておいたりしませんか。

問題解決は知識だけではどうにもなりません。いま目の前にある問題を何とかしようという気持ちがなければ、問題解決は前進しません。毎年、洪水の被害にあう地域の住民は、自分の家を守るために工夫をしたり、役所に陳情にいたりするでしょう。河川の護岸工事をしてもらうために署名活動をするかもしれません。問題解決のアクションを促すのは「意欲」です。より快適で安全な生活がしたいという意欲です。問題解決には実践（つまり「自らやってみる」ということ）が必要です。いくら知識があっても、この「やってみる」という気持ちがなければ、事態はいつまでたっても変わらず、改善されないでしょう。政策科学は、「知識」を「実践」に結びつけようとするところに特徴があります。

3.3 問題解決の経験

では、問題解決の意欲というのはどこから生まれてくるのでしょうか。もちろん、その問題が自分の生活に直に関係している場合は、他人事ではありませんから、問題解決の意欲は自ずと生まれてくるでしょう。けれども、直接自分に関係のあることにしか関心を向けないのであれば、それは学術研究にはなりません。また実は、私たちには共感の能力があります。直接自分には及ばなかった被害や不幸を悲しんだり、それらに憤ったり、何とかしなければと使命感をもったりすることができます。私たちは遠い国で貧困に苦しみ、非人道的な扱いをされている人びとに共感することができます。私たちは、大きな災害や事故で家族を失った人びととともに悲しむことができます。

広い視野から様々な社会問題に接近するために必要なのは経験を広げることです。学問のはじまりは「驚き」であると述べた哲学者がいます。この哲学者が伝えたかったことは、実際に見たり、聞いたりする、そうした経験が学問にいかに大切かということです。私たち一人一人の個人生活で経験できることは、ごく限られています。毎日、同じ時間に起きて、ご飯を食べて、身支度をし、学校や会社へ同じ経路で向かい、同じ時間に帰宅する。日常生活はそんなものです。

政策科学部では、経験を広げる機会として学びを位置づけています。政策科学部では、いま動きつつある政策問題の現場に出かけたり、政策問題の最前線で問題解決に取り組んでいる人々の話を聴いたり、ときには政策問題の解決に参加したり、そういった学び方を重視しています。こうした学びの資源や教材は教室の中にはありません。大学のキャンパスの中にもありません。教室の外、キャンパスの外に政策科学の学びの素材があるのです。政策科学部が、フィールドスタディを重視している理由はここにあります。それは、現に動きつつある政策問題とともに学ぶということです。これもまた政策科学が実践的な学問であると言われる理由です。

問題解決を指向する実践的な学び、これが政策科学部の教学理念です。皆さんが、4年間の学修を通じて、政策科学の学びに必要な知識を吸収し、経験を重ね、問題解決の意欲に溢れた人材として社会に活躍の場をみつけれられるよう心から願っています。

3.4 政策構想

政策科学部の学生が伸ばす政策実践の力が、たとえ現在の自分の半径5mの中で十分発揮されたとしても、それは満足されるべきものではありません。政策科学を必要とする人は地球上に広がっています。津波被害は、日本だけのものではありません。サハリンでもアチェでも津波は甚大な被害を及ぼしています。地方分権、高齢化社会、教育政策から国境問題、財政赤字、宇宙開発にいたるまで、多くの国に共通する課題は増えつつあります。

また自分の提案した政策提言はいつまで有効なのでしょう。言い換えれば使用期限はいつ頃に設定されるべきものなのでしょうか。たとえば、明日、問題が解決されたとしても来週、来月、来年、そして100年後、同じ問題がおきるとしたらその提言の有効性は大きく限られていることとなります。東日本大震災では、津波の到達点を記した江戸時代、明治、昭和の時代の石碑の存在が見直されました。過去からのメッセージがあったにも関わらず現在に生きる我々はそれを活かした政策を実施していなかったのです。また津波の被災地の復興計画策定に際しては、海沿いの居住地再建を優先して10年後を見据えるべきか、100年後を見据えて高台移転を進めるべきでしょうか。政策科学は、過去からのメッセージに向き合い、未来の人たちのために考えられるべきものです。

この時間と空間、とりわけ時間的な尺度を一層拡大した政策実践の力を政策構想力として再定義します。政策構想力とは、混沌とした状態の中でも可能な限りの情報を収集し、責任を持てる将来ヴィジョンを描ける能力です。

この能力は、政策提言というアウトプット以外に、緻密な政策過程分析、歴史的な政策研究、未来学的な政策研究として提示されることもあります。現代がそうした構想力を特に求めていることは、この間提案されてきた各種の構想を見れば明らかです。ナショナルでは大連立構想、政権構想、震災復興構想、ローカルではふるさと構想、そしてリージョナルでは東アジア共同体構想といった、定型的発想からは到底生まれぬような通時性、戦略性、普遍性を兼ね備えた問いへの応答が求められているのです。

振り返って、冷戦後の世界への対応と非自民連立政権の登場を特徴とした1990年代の日本は、政策の代替可能性を論じることとしての代替政策実行力を必要としてきました。しかし主権国家体制では理解困難な「9・11」テロ攻撃やグローバリゼーションの深化による世界的競争の拡大、戦後日本の最大の惨事となった「3・11」の衝撃は、代替的な政策の模索だけでは間に合わないことを示しています。

そこで時間的理解と戦略的思考をふまえた政策構想が必要なのです。政策科学部は、もともと、政策研究者の時代感覚と未来への構想力が問われる第3の局面に突入した時代に発足しました。この学部は初期認識を現在の認識として再度考えることが必要です。

もちろん未来への構想力のスパンを長くとればとるほど、その不正確さを蓋然性という基準を用いて表現することが多くなります。同時に政策科学を、短時間で問題解決するための便利な学問として誤解してはいけないということです。ミレニアムの構想力は、宗教でも形而上学でもなく、現実のものとして必要です。「未来を信じ、未来に生きる」という本学の精神にのっとり、政策実践力と政策構想力を伸ばして、学生一人一人が未来を拓く礎となってください。そのためには、戦略的思考とリーダーシップを有する未来志向の人材となることが求められます。

政策実践力とは、広い視野と確かな知識に基づいて政策目標について学び、豊かな経験と役立つスキルを駆使して自らが政策を実現する力です。また長い時間と広い空間を見据えて、混沌とした状況の中でも情報を収集し、将来ヴィジョンを大局的な観点から描く力が政策構想力です。

4. 政策科学部の人材育成目的、教育課程編成・実施方針、学位授与方針

4.1 人材育成目的

以上に述べた教育理念のもとで政策科学部が定めている人材育成目標、教育課程編成・実施方針、および学位授与方針を要約すると、次のようになります。

4.2 教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

政策科学部は、政策科学を研究・教育し、問題解決指向的な精神を備えた政策実践力と政策構想力を持ったグローバル人材を育成することを目標とします。

政策科学部のカリキュラムは、ヴィジョン科目（8単位以上）、情報技法科目（8単位以上）、グローバル言語科目（8単位以上）、政策科学基礎科目（10単位以上）によって構成される「学術俯瞰科目」群（44単位以上）と、公共政策系・環境開発系・社会マネジメント系の3つの領域に関する専門的内容を学ぶ科目および小集団の演習科目（コア科目）と学士論文（必修科目）から成る「政策科学科目」群（68単位以上）から構成されています。

学術俯瞰科目（MLC） Meta-Learning Courses	ヴィジョン科目（VB） Vision Broadening	問題解決を指向する思考と判断力の裏付けや基盤となる、ローカル・グローバルな視点からの広い社会科学的視野と価値観、人類の普遍的な価値規範を主に講義によって学びます。
	情報技法科目（IM） Information and Methods	情報処理および社会科学的な分析技法を講義と演習によって学びます。
	政策科学基礎科目（MP） Meta-policy	専門科目（政策科学科目）を学ぶための基礎的な視点と知識を講義により学びます。
	グローバル言語科目（LGA） Languages for Global Actions	ローカルかつグローバルな視点から現代の政策課題を理解するとともに、政策を実践し構想するための外国語能力を身につけるために、必要なアジア言語／欧州言語を習得します。
	政策科学科目（PLC） Policy Learning Courses	現代の政策課題を理解できる知識と理解力を身につけるために、政策科学の理論を講義と演習で深く学びます。中でも「コア科目」として位置づけられた各学年の小集団演習科目（「基礎演習」「研究実践フォーラム」「政策構想演習」「学士論文」）においては、政策を実践し構想するための基礎的な技能を鍛えつつ、専門的な知識と理解力を集中的に養います。また小集団ならではの問題解決的な取り組みを通じて、参加理念を重視する態度を基礎としたリーダーシップとネットワーク形成の意義を学び、問題解決を図る意欲と態度を養成します。
R+科目		政策科学部の学びを発展させたり、広い視野を得ることができる、他学部受講科目、外国留学科目等が含まれます。
政策英語科目（EPS）		英語により政策課題へ理解を深めるとともに、英語を用いて政策を実践し構想するための基礎的な技能を伸ばす授業です。

4.3 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

政策科学部は、政策科学に関する科目を教授し、問題解決指向的な精神を備えた政策実践力と政策構想力を持った人材を育成することを目的として、卒業時において学生が獲得あるいは習得すべき能力（教育目標）を下記のとおり4項目定めます。

これらの能力は、本学部のカリキュラムが規定する所定単位の修得と学士論文の合格によりその達成とみなし、学士（政策科学）を授与します。

1	1-1	幅広い世代からなり多様な価値観を持つ地域・国際社会に関心を持ち、成熟した市民社会での参加理念を重視する態度を持つ。
	1-2	リーダーシップとネットワーク形成の意義を理解し、問題解決を図る意欲と態度を持つ。
2		ローカルかつグローバルな視点をあわせ持ち、総合的な社会科学の素養に基づき、現代の政策課題を理解することができる。
3		政策を実践し構想するための社会科学的・情報科学的分析手法と外国語能力、基礎的な技能（資料読解力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、文章作成力）を身につける。
4		人類の普遍的な価値規範（平和と民主主義、人権、公共性など）に立脚した、問題解決指向的に思考と判断をすることができる。

5. キャリア創造の学びと政策科学ー「学ぶこと」と「実践すること」

「政策科学」は、大学教育の新しい分野です。政策科学部のカリキュラムがどのような理念によって編成されているのかに関しては前述の通りですが、これを別の表現でいうならば、キャリア形成を念頭においた学びを実現しているといえるでしょう。

政策科学の学びは実践的な学びです。これは何を意味するのでしょうか。私たちの知識は大きく二つに分けられます。少し難しい言い方かもしれませんが、一つは「理論知」、もう一つは「実践知」です。「理論知」は本を読んで知ったり、講義を聴いて知ったりしたことの全てが含まれます。小学校、中学校、高校、そして大学の授業を通じて身につけてきたものの多くはこれにあたります。

では「実践知」とは何でしょう。身近な例で考えてみましょう。自転車に乗れるようになったり、テニスやスキーなどのスポーツが上手になったり、料理ができるようになったりする時、私たちはそれをどのように学ぶのでしょうか。もちろん、テニスやスキーなどスポーツの技術について解説した本があります。料理でもクッキングブックといった本があります。スポーツでも料理でも初心者には、そうした本を読むところから始めるかもしれません。

しかし、本を読んだだけでは、スポーツも料理もなかなか上達しません。上達するためには「身体で覚える」「経験を重ねる」「失敗から学ぶ」…こういったことが必要です。このようにして学ばれた知識、経験や体験の中で培われた知恵—これが「実践知」です。

大学教育では今、就職のためのキャリア形成に注目が集まっています。政策科学部でのキャリア形成は、単なる就職活動や進路選択のための支援のことではありません。政策科学部のキャリア形成は、上に述べた「実践知」を身につけることと表裏の関係にあります。

キャリア形成における重要なポイントは、「キャリアを造る：知識を生かす学び」という点です。

私たちは大学で様々な知識を学びます。その知識は、社会でどのように役立ち、どのように活用されているのか、また、どのように役立て、どのように活用させられるのか。こういう視点で捉えなおされた学びを「コンテクスチュアルな学び」と呼びます。政策科学部では、この「コンテクスチュアルな学び」を充実させるために様々な取組みを進めています。

6. 世界に羽ばたくバイタリティを身につけるための学び

「グローバル人材」と聞くと、みなさんはどのようなイメージを持ちますか。世界中を駆け回り、流暢に英語を話し、生活スタイルも欧米風というイメージを持つかもしれません。本学部では、グローバル人材を英語や現地の言葉を用いながら、自分とは異なる文化を持つ人々と交流し、仕事ができる人と考えています。同じ日本で暮らす同世代の人々との日本語におけるコミュニケーションと比べると、このようなコミュニケーションは大変です。自分たちにとって常識と思うことも、先方の常識でないことも多く、逆もまたしかりです。

異質なものと出会いは、一方で私たちを驚かせますが、他方で私たち自身の視野を広げてくれます。政策科学部では、みなさんが社会に出て、日本で、また別の国で、外国人とともに働いたり交流したりする際に必要な基礎力を養います。後述する英語で学ぶ専門科目以外にも、ヨーロッパやアジアの10言語から第二外国語を選択して履修しますが、新しい外国語の学びは異質なものと出会いそのものでもあり、多くの驚きが待っていることでしょう。さらに本学部では、英語や現地語を駆使しながら、自分とは異なる世界の人々との交流をし、その違いを楽しめる、そのようなバイタリティを身につけるために、様々なプログラムも用意しています。2年生ゼミナールの海外フィールドワークにおいては、英語を共通言語として用いながら、学びつつある当該地域の言語も実際に使ってみます。くわえて、英語基準コースの科目の受講や東南アジアへの留学プログラム（「ASEANで学ぶ国際PBLプログラム」）の参加も奨励しています。いずれも、現地の大学生や先生、企業の方々、留学生など、みなさんとは異質な人々との交流が予定されています。

このように、教室で学んだ言語を実際に現場で使う経験、また使って失敗した経験は、みなさんの世界観を変えるかもしれません。異質なものと出会いを学生時代に積み重ねることによって、みなさんの世界に対するハードルが下がることを私たちは期待しています。社会に出て、急に（新しい）外国語を使って仕事をしなければならなくなった時に、多少自信

はなくても「やってみる」気概と柔軟性が世界に羽ばたくバイタリティとなります。このバイタリティこそグローバル人材に必要不可欠な条件です。

II. 教育課程の編成と履修概要

1. 学位取得（卒業）について
 1. 1 科目区分ごとの卒業に必要な単位
 1. 2 卒業見込証明書発行基準
 1. 3 セメスターごとの登録上限単位数
2. 政策科学部のカリキュラムについて①
 2. 1 政策科学 (PLC) 演習科目
 2. 2 学術俯瞰科目 (MLC) / Meta-Learning Courses
 2. 3 政策科学科目 (PLC) / Policy Learning Courses
 2. 4 政策英語科目 (EPS) / English for Policy Science
 2. 5 R+科目
 2. 6 自由科目
 2. 7 政策科学部学部則
3. 政策科学部のカリキュラムについて②
 3. 1 カリキュラム表
 3. 2 カリキュラムツリー
 3. 3 カリキュラムマップ
 3. 4 履修イメージ
 3. 5 科目概要

1. 学位取得（卒業）について

1.1 科目区分ごとの卒業に必要な単位

科目区分			必要単位		
学術俯瞰科目（MLC） Meta-Learning Courses	ヴィジョン科目（VB） Vision Broadening	ヴィジョン基礎科目	8 単位以上	44単位 以上	各科目区分の必要単位数を修得した上で 合計124単位以上 。 ※ただし、政策英語科目（EPS）で 8 単位以上 ※CRPS専攻科目の履修は、12 単位を上限に卒業必要単位として認める。
		ヴィジョン展開科目			
		VB特殊講義			
	情報技法科目（IM） Information and Methods		8 単位以上		
	政策科学基礎科目（MP） Meta-policy		10単位以上		
グローバル言語科目（LGA） Languages for Global Actions		8 単位以上			
政策科学科目（PLC） Policy Learning Courses			68単位以上 ※ただし、学士論文は必修		
R+科目			12単位を上限に算入されます		

※R+科目で修得した単位は12単位を上限に卒業に必要な単位に算入されます。

※上記各科目区分で必要単位数を超えて修得した単位は卒業に必要な単位に算入されます。

※「自由科目」は卒業に必要な単位に算入されません。

※留学生も卒業要件は同じです。

※CRPS専攻科目の受講登録については、取得単位数と当該セメスターの受講登録単位数を合わせて12単位を上限とします。

1.2 卒業見込証明書発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、各キャンパスに設置されている証明書自動発行機で発行できます。（発行時に100円/通の手数料が必要）

【発行基準】

①第7学期以降であること

※「履修状況確認」に表示されている「現セメスター」が、7セメスター以降であること。
（「履修状況確認」画面は、manaba+RからCAMPUS WEBへログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること。（休学中は発行できません）

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

※第8学期（8セメスター）以降の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります。（卒業見込日を選択することはできません）

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日（下記参照）
第7学期（7セメスター） 学期開始日（*）～学期終了日	75単位以下	（証明書発行不可）
	76単位以上	翌学期卒業日
第8学期以降（8セメスター以降） 各学期開始日（*）～学期終了日	75単位以下	（証明書発行不可）
	76単位以上99単位以下	翌学期卒業日
	100単位以上	当学期卒業日

※システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3月20日

1.3 セメスターごとの登録上限単位数

受講登録上限単位数

1 学期間の登録上限単位数

1 学期間に履修科目として登録することができる上限単位数は、以下のとおりです。

なお、入学後、最初の学期は第1学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します。自身の現在の学期は、履修状況確認画面に記載されている「現セメスター（現学期）」でも確認可能です。

(学期ごとの受講登録上限単位数)

1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		5 回生以上
第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期	第6学期	第7学期	第8学期	第9学期以降
20	20	22	22	24	24	24	24	24

通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において1/2分の単位数をカウントします。

（例）通年4単位科目を受講登録した場合、春学期に2単位、秋学期に2単位分をカウントします。

登録上限外科目

以下の科目は、登録上限単位数に含まれません。

- ・集中セミナー
- ・その他登録時に登録上限単位数に含まれないと明記された科目

上限単位数の緩和を行う場合（特例扱い）

以下のプログラムに参加した者に限り、上限単位数を以下のとおり緩和します。

(特例扱いとするプログラム)

- ・学籍異動を伴う海外留学プログラムに参加した者
- ・その他募集時に上限単位数を緩和すると明記された科目

(上限単位数)

30単位

(特例扱いを行う時期)

派遣終了後の翌学期

※ただし、DUDP参加者は、派遣終了後の翌学期に加えて、派遣前の学期においても上記特例を適用します。

2. 政策科学部のカリキュラムについて①

2.1 政策科学（PLC）演習科目

2.1.1 意義・目標・履修の流れ

（１）意義と目標

政策科学部では、演習科目をコア科目として位置づけています。政策科学の学びは知識摂取のみで足るものではありません。一人一人の知識と思考をもとに、学生相互の切磋琢磨を通じて高め合い、政策科学としての学問の発展に貢献するものであるべきです。そのためには高い密度の議論と高い頻度のアウトプットが必要です。これができるのは演習科目しかありません。それゆえほとんどの演習科目を登録必修科目あるいは必修科目としました。

当然ながら、これらの科目では、グループワークで作業を進めることが比較的多くなります。しかしその課題はあくまで個人に提示されていると肝に銘じておいてください。また政策科学部では、演習科目をコア科目としており、全ての科目の基礎をなすものとして特に重視しています。出席、時間厳守、課題提出期日厳守は当然のこととして理解しておいてください。

なお原則として、学士論文（４単位）を除く全ての小集団の演習科目は２単位科目です。

（２）履修の流れ

１回生春学期に政策科学の基礎を「基礎演習」で学びます。１回生秋学期には研究入門的なリテラシーを「プロジェクト入門」で学び、２回生では国内外の政策現場の存在を意識した政策実践的な展開を「研究実践フォーラムⅠ」、「研究実践フォーラムⅡ」で行います。この科目ではフィールドワークとグループワークを中心とするプロジェクトにおいて実践的学習を行います。これにより２回生時に強固な政策実践力を学生のみなさんは獲得します。

３回生から４回生春学期には政策構想力の鍛錬の場として、「政策構想演習Ⅰ」、「政策構想演習Ⅱ」、「政策構想演習Ⅲ」が開講されます。４回生春学期の「政策構想演習Ⅲ」では卒業論文の研究計画書を執筆せねばなりません。

そして４回生秋学期はいよいよ「学士論文」です。４年間の学びをしっかりとした卒業論文として世に問える内容と形式で提出してください。この卒業論文を提出し、「学士論文」の単位を修得しないと卒業はできません。

履修の流れは下記の表を参照してください。

	基本的な履修パターン	オプション
1 回生	1st sem. 基礎演習	
	2nd sem. プロジェクト入門	
2 回生	3rd sem. 研究実践フォーラムⅠ	
	4th sem. 研究実践フォーラムⅡ	オンサイト調査演習
3 回生	5th sem. 政策構想演習Ⅰ	
	6th sem. 政策構想演習Ⅱ	集中セミナー A31, A32, B31
4 回生	7th sem. 政策構想演習Ⅲ	
	8th sem. 学士論文 (4単位)	集中セミナー A41, A42, B41

※ 下線は登録必修科目。学士論文は必修科目。
 ※ 学士論文は春学期に開講することがあります。(ex. 学籍異動をした学生向け)

2.1.2 基礎演習 (登録必修科目)

政策科学の学びの出発点が「基礎演習」です。政策科学の基本的理解、社会科学の方法論、グループワークの手法、政策科学における討議・討論の手法等の理解を深めることで、論理的思考、批判的思考、多角的視野を獲得してください。学生は、それぞれ学問に対して、十分な自学自習を行い、自分で考え、自らの意見・結論を見出す姿勢を大学入学後の早い時期に身につけてください。

「基礎演習」は、政策実践力・政策構想力を身につけるための基礎となる論理的思考力・多角的思考・表現力・文章力を習得することを目的とします。

様々なテーマについて課題設定・問題発見と調査を基礎にした事前の周到なリサーチとプレゼンテーション等をはじめとする教室での積極的な発言を通じ、大学での学問的取り組みに関する基礎的技法を身につけてください。その際には補助教材である「基礎演習副読本」等を活用してください。

主として表現力、文章力をもとにレポート・研究計画書・論文作成の基礎を習得するための「政策実践ライティング」を行います。各クラスで特定の課題をいくつか設定し、これに関するリサーチを実施した上で各自がライティング・レポートを作成し、提出します。提出されたレポートは添削の後に返却されます。この過程で、レポートの体裁・表現・構成・内容についてのアカデミックライティングの基本的ルールを学んでください。

2.1.3 プロジェクト入門 (登録必修科目)

「プロジェクト入門」では、基礎演習で習得した政策実践力・政策構想力の基礎をもとに、グループワークの経験を通じて、個々人の研究能力を向上させ、質の高いリサーチ・プロポーザルを作成することを目指します。グループワークでは、研究プロジェクト遂行の基礎的作法を身につけ、内容の濃いグループワークを完遂するための条件や議論を、自省しながら考えます。これらを通じて、2年生担当の「研究実践フォーラムⅠ・Ⅱ」のプロジェクトにつながる適切なリサーチ・プロポーザル（研究計画書）作成の仕方を知得します。

2.1.4 研究実践フォーラムⅠ・Ⅱ

3つの学系である公共政策・社会マネジメント・環境開発のうちいずれかに所属し、共通のテーマをもつ研究グループ（プロジェクト）を編成し、政策実践の観点から設定したテーマについての論文を作成する演習科目です。学部教員の専門性と政策現場との密接な関係に依拠した特定プロジェクトと学生自身による様々な課題設定による自主プロジェクトからなります。目標は下記の通りです。

1. 研究グループとして掲げたテーマに沿って計画的・効率的に、かつメンバーの合意形成を図りつつ研究をすすめる。
2. 文献調査等によりテーマについてグループ内で関連知識を共有する。
3. 可能かつ必要であればフィールドワークを行い、その基本的手順とマナーを習得する。調査対象の確定やアポイントメント、礼にかなった調査や聞き取り、データの管理とまとめ、調査終了後の取材対象へのお礼やレポート送付などを実践的に学ぶ。
4. テーマによっては、統計やデータベースの活用、データの統計的处理と仮説の実証などに踏み込んでレポートをまとめる。
5. 複数のメンバーの意見を調整し、グループワークの成果を構成や表現にも留意しながら文章化する。

以上はあくまで一般的なものですが。個別のテーマによってそれぞれの力点の置き方や構成は異なります。

科目ごとに成果報告（プロジェクト報告書Ⅰ、プロジェクト報告書Ⅱ）を提出せねばなりません。詳細は「2.1.10 政策科学（PLC）演習科目における単位授与に関わる論文」を参照してください。

2.1.5 政策構想演習Ⅰ・Ⅱ (登録必修科目)

この演習科目は、個人研究を基礎とした政策構想力の涵養を目指す演習科目です。みなさんは、震災復興構想のような学際的、巨視的、歴史的な構想の作成を将来担う一員となるべく、学士（政策科学）として卒業せねばなりません。可能な限り透徹した学問的洞察と伶俐な事例観察を行うに足るには、戦略的思考を鍛錬せねばなりません。「3・11」後の世界が求める政策実践力と政策構想力を備えた学生となって、社会にコミットする力と意思を知的に形成してほしいと願います。

各セメスター末に論文を提出せねば単位は授与されません（「2.1.10 政策科学（PLC）演習科目における単位授与に関わる論文」参照）。学士論文に至る中間点として、キャップ・ストーン型の論文を提出してもかまいません。「政策構想演習」の履修にあたっては、各クラスのテーマに関連するPLC科目の履修が推奨されます。

2.1.6 政策構想演習Ⅲ (登録必修科目)

「政策構想演習Ⅰ・Ⅱ」の学習をもとに、卒業論文執筆をめざして研究を深める演習科目です。卒業論文の執筆計画をたて、計画書を提出することが単位認定の要件となります。詳細は「2.1.10 政策科学 (PLC) 演習科目における単位授与に関わる論文」を参照してください。

2.1.7 学士論文 (必修科目)

政策科学の学びにとって、コア科目最終段階で学びの集大成として位置づけられるのが、「学士論文」(卒業論文)です。これは、学士(政策科学)として卒業する諸君の質の保証となるものです。「学士論文」の単位認定には十分な質と量の伴った卒業論文の提出が必須であり、この授業ではその執筆・作成指導を真摯にうけてください。

「学士論文」の単位を修得しなければ、卒業することができませんので十分注意してください。

卒業までの4年間における学習の成果が何であるのかを自分自身で明確に認識することは、在学期間の意味づけを学生自身が積極的に行い、ひいては学生自身の研究を客体として対象化するためにも不可欠です。学術的な性格をもつ、公表に耐える卒業論文となることが望まれます。

「学士論文」受講に際しては、「卒業論文研究計画書」の提出が必要です。

2.1.8 オンサイト調査 演習

主に「研究実践フォーラム」の特定プロジェクトの現地調査のための科目です。事前指導・現地調査・フォローアップの3つの段階をふまえて、世界的な展開を展望する政策実践力を獲得してください。夏期休暇中等に海外／国内に1ないし2週間程度調査に赴きます。また、先方の大学の学生とともに国内で共同研究を行うこともあります。現地での研究調査をふまえて報告書を提出してください。(2.1.1 表「オプション」)

2.1.9 集中セミナー

「政策構想演習」のテーマに関連する研究を学生が個人あるいは集団で集中的に時間をかけて遂行するための科目です。「政策構想演習」の学びでは得られにくい集中学習によって、政策構想力を伸ばし、卒業論文の執筆の基礎的論点を確かなものとし学術的知見の裾野をひろげてください。なお、この科目は、「政策構想演習」を同時に履修しなければ登録できません。

また受講登録の方法や開講クラスについてはmanaba+Rを参照してください。指導教員からの指導に従い、実施日程等についても十分注意しておいてください。

2.1.10 政策科学(PLC) 演習科目にお ける単位授与に 関わる論文

以下の表にはPLC演習科目の単位授与に関わる提出物の概要がまとめられています。論文等の提出にあたっては、提出期限、場所、形式等については、その都度、担当教員の指示を確認し、それに従ってください。

演習科目名	回生	論文の名称	論文の概要
基礎演習	1	ライティング・レポート	論文ライティング課題が課されます。書式・提出期限などについては、クラス担当教員の指示に従うこと。
プロジェクト入門	1	リサーチ・プロポーザル	同上
研究実践フォーラムⅠ・Ⅱ	2	プロジェクト報告書Ⅰ・Ⅱ	MS-Word利用・A4サイズとする。 基本的に少なくとも以下の内容を含むこととするが、記載内容の詳細についてはクラス担当教員の指示に従うこと。 ・研究の背景・目的 ・先行研究のレビュー ・研究方法 ・これまでの研究進捗状況 ・今後の計画 ・参考文献
政策構想演習Ⅰ	3	ゼミ論文Ⅰ	(1) MS-Word利用3,000字程度(外国語の場合は750語以上)の論文を執筆する。 (2) A4サイズ(縦置き横書き)に限る。 (3) 論文の書式の詳細は担当教員の指示に従うこと。デジタルコンテンツ、映像、音声など論文以外の形態の提出物については、指導教員に相談すること。
政策構想演習Ⅱ	3	ゼミ論文Ⅱ	(1) MS-Word利用6,000字程度(外国語の場合は1,500語以上)の論文を執筆する。 (2) ゼミ論文Ⅱは、論文Ⅰを含み6,000字で執筆し提出することもできる。 (3) A4サイズ(縦置き横書き)に限る。 (4) 論文の書式の詳細は担当教員の指示に従うこと。デジタルコンテンツ、映像、音声など論文以外の形態の提出物については、指導教員に相談すること。
政策構想演習Ⅲ	4	卒業論文研究計画書	(1) ゼミ論文Ⅰ・Ⅱの内容をもとに、卒業論文に至る準備をどのように進めているのかを報告する。 (2) A4サイズ(縦置き横書き)に限る。 (3) 計画書の長さは3,000字程度(外国語の場合は850語以上)を標準とする。ただし、ゼミ論文Ⅰ・Ⅱの内容をふまえて9,000字の計画書を提出することができる。
学士論文	4	卒業論文	「学士論文」は必修科目である。 (1) 卒業予定年度の12月までに提出すること。 (詳細は別途指示する) (2) A4サイズ(縦置き横書き)に限る。 (3) 論文の長さは、1人につき20,000字程度。外国語の場合は5,000語程度。デジタルコンテンツ、映像、音声など論文以外の形態の提出物については、指導教員に相談すること。 (4) 書式の詳細については別途指示する。

2.2 学術俯瞰科目 (MLC) / Meta-Learning Courses

2.2.1 ヴィジョン科目 (VB) / Vision Broadening

(1) 意義と目標

政策を学び、政策を構想する政策科学では、政策課題や政策争点の大きな背景を学ぶ必要があります。政策の学びは常に複合的です。たとえば、新興国の開発を学びたいとします。開発を学ぶのですから、経済学の分析方法についての知識も計画理論のことを知らなければなりません。それだけではありません。開発が行われようとしている地域の文化や歴史のことも知らなくてはならないでしょうし、開発援助政策の問題点についても知っておく必要があります。こうした複合的な学びを支える広い視野を養うのがヴィジョン科目(ヴィジョン基礎科目、ヴィジョン展開科目、VB特殊講義)という区分に配置されている科目群です。

ヴィジョン科目は、1回生から3回生まで各回生に配当されており、複雑な政策争点の広い背景を学ぶ科目です。

すぐれた問題解決能力をもつためには、幅広い視野と教養が必要です。それぞれの科目の概要については、「3.5 科目概要」を参照してください。

(2) 卒業に必要な単位

ビジョン科目 (VB) から 8 単位以上を修得しなければなりません。

(3) データサイエンス+Rプログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス+Rプログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

1. データサイエンス+Rプログラム (基礎)

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1 回生以上	2 単位

2. データサイエンス+Rプログラム (応用基礎)

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI基礎	1 回生以上	2 単位
データエンジニアリング基礎	1 回生以上	2 単位
Foundations of Data Science and AI	1 回生以上	2 単位
Foundations of Data Engineering	1 回生以上	2 単位

以下の通り、重複履修はできませんので、注意してください

	対象科目	履修条件
A	データサイエンス・AI基礎	どちらか1つのみ単位取得可能 (重複受講不可)
	Foundations of Data Science and AI	
B	データエンジニアリング基礎	どちらか1つのみ単位取得可能 (重複受講不可)
	Foundations of Data Engineering	

※ABそれぞれ1科目ずつ単位取得することにより応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

3. データサイエンス+Rプログラムの修了について

上記、データサイエンス+Rプログラム (基礎) ならびにデータサイエンス+Rプログラム (応用基礎) 双方の要件を満たした学生へは、その証として履修証明書 (オープンバッジ) が付与されます。オープンバッジについての詳細は「立命館大学 教養教育」のHPから確認してください。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。
・右のQRコードから、アクセスできます。



2.2.2 情報技法科目 (IM) ／Information and Methods

(1) 意義と目標

政策課題や政策争点の背景にある社会状況を分析したり、問題解決のために必要な政策案の効果を予測したり、過去に実施した政策の効果を測定したりするためには、科学的な技法や調査方法の修得が必要になります。これらの技法や方法は、どのような政策課題を学ぶにしても、必ず身につけておきたいものです。まず、科学的な調査・分析技法を学ぶための科目として、そのもっとも基礎的な科目である「調査分析技法入門」を入り口に、数量的な分析手法の基礎を学ぶ「統計学」や「データ分析」があります。調査の技法や方法を学ぶ科目は、社会現象を数量的に解析する技法を学ぶ「社会調査法」および社会現象の質的な調査の方法を学ぶ「フィールド調査法」があります。これらの技法を使った政策分析の技法を実践を通して学ぶ科目に「ゲーミング&シミュレーション」・「地域環境調査Ⅰ・Ⅱ」があります。

高度情報化社会と呼ばれる今日においては、情報機器やソフトウェアの操作スキルが必須

であることはいうまでもありません。政策科学部では、こうした基礎的スキルを全員が習得することはもちろんですが、より高度な情報処理の技法を調査・研究や政策分析に活用できる力量の育成を教学理念の柱の一つにしています。このため、登録必須科目である「政策情報処理」を入りに、情報全般に関わる基礎知識を学ぶ「情報科学入門」、情報機器をより使いこなすための技能を学ぶ「プログラミング」、重要な社会インフラである情報ネットワークに関わる技術的知識を学ぶ「情報技術マネジメント」、地理情報処理システム（GIS）を用いた地域を分析する技法を学ぶ「地域空間分析」があります。それぞれの科目の概要については、「3.5 科目概要」を参照してください。

(2) 情報ネットワークシステムの利用上の注意

本学部では学生全員が機器を持ちネットワークに接続する前提で教育を行っています。そのため、特段の注意を必要とする事項がいくつかあります。一緒にネットワークを利用している他の人々に迷惑をかけないようなマナーを身につける必要もあります。詳細は、講義に際して別途配布する資料に出ています。特に以下の点に留意してください。

- ①外部からのソフトウェアの持ち込みと稼働は、ウイルス感染防止のため全面的に禁止しています。
- ②個人的なファイルは、学習上必要なものも含めて大学に設置されているパソコンのハードディスクに保存されるのは、ログオンしている間だけとなります。ログオフ後、パソコンのハードディスクから個人的なファイルは削除されますので、必要なファイルやデータは、個人的にUSBメモリ等に保存する必要があります。個人ファイルの破損や損失については大学は責任を負いかねますので、各自の責任においてバックアップなど適切な対応をとるように心がけてください。
- ③許可されていないマシン等への侵入等、重大なルール違反（いわゆる「クラッキング」等）に対しては、ネットワークシステムの利用停止を含む大学としての処罰を行うとともに、必要な場合は社会的な責任をとってもらうこともあります。
- ④環境保護の立場から、有形や無形の資源を無駄にしないような利用を心がけてください。特に、印刷用紙の無駄に注意してください。
- ⑤オープン利用の環境は他人に迷惑をかけない限りかなり自由な使い方をすることができますが、それ以外の環境では利用に一定の制限が加えられます。教職員や管理スタッフの指示に従ってください。
- ⑥他人がログオン中のパソコンを操作したり、他人のメールアドレスからメールを送信したりすることは、たとえ悪意はなくてもネットワーク利用上のルール違反になります。自らのプライバシーを守るだけでなくシステム全体のセキュリティを高めるためにも、IDやパスワードは各人が責任を持って管理し、特にパスワードについては他人に漏れないよう注意してください。
- ⑦大学に設置されている共同利用の機器は、利用者全ての共有財産なので特に丁寧に扱ってください。また、通常の使用でのトラブルについては利用者が責任を問われることはありませんので、トラブル・破損等は速やかに教職員・管理スタッフまで報告してください。
- ⑧科目によっては講義時間中に個人購入の機器が必携となります。

(3) 卒業に必要な単位

情報技法科目（IM）分野より8単位以上を修得しなければなりません。

(1) 意義と目標

「政策科学基礎科目」はその名の通り、政策を学ぶために必要な社会科学の基礎理論や社会状況の科学的把握や予測に必要な基礎を学ぶ科目が中心になっています。

各種の政策課題が発見され、分析され、その解決オプションが開発され、決定、実行、評価されるサイクルの特性を習得することが目標です。

政策科学の学習は複合的な性格をもっています。そのため、政治学、法律学、経済学、経営学、社会現象の数量的な理解や科学的で合理的な予測と制御について学ぶ科目など、政策科学にとって重要な学問の基礎をしっかりと学ぶ必要があります。政策科学部では、これらの領域の基礎を身につけることはもちろんですが、そこで獲得された知識が政策の学習にどのように活かされるのか、このことを念頭に講義が行われます。それぞれの科目の概要については、「3.5 科目概要」を参照してください。

(2) 卒業に必要な単位

政策科学基礎科目（MP）分野より10単位以上を修得しなければなりません。

2.2.3 政策科学基礎科目 (MP) / Meta-policy

2.2.4 グローバル言語科目 (LGA) / Languages for Global Actions

(1) 意義と目標

政策科学部は、英語に加えて、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、イタリア語、中国語、朝鮮語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語から1つ選んで学習するグローバル言語科目 (LGA) のカリキュラムです。

グローバル化する現在、英語はとても大切です。しかし、英語だけでは現代の政策課題を考えることはできません。複数の文化における経験を持ち、複数言語でコミュニケーションが行える運用能力と異文化間交流に参加できる能力を身につけることは有益です。政策科学部は、国際的なコミュニティ・エクスチェンジ型学習と多言語学習の経験を通じて、世界的な展開を開始するに足るバイタリティを獲得することができると考えます。政策科学部の英語学習科目であるEPS (English for Policy Science) 科目(「2.4 政策英語科目 (EPS)」を参照)にくわえて、グローバル言語科目 (LGA) の学習を通じて、複言語主義 (Plurilingualism) をすすめることが重要です。

「グローバル言語科目 (LGA)」は、一般に第二外国語科目あるいは初修外国語科目と呼ばれているものに相当します。多くの入学者は、中学・高校で英語を学習していますので、英語以外の語種から構成されるLGA科目は、学生が大学入学後に学習を開始する外国語学習科目ということになります。第二外国語もしくは初修外国語をグローバル言語科目と呼ぶのには理由があります。政策科学部では開設以来、学生の海外調査実習を重視してきました。調査フィールドは欧州、北米のほか、東アジア、東南アジアの諸国に広がっています。多くの学生は2回生の政策実践フォーラムで海外調査実習に参加しますが、グローバル言語科目はそうした海外調査実習のスケジュールにあわせた学習を可能にし、実際に現地ですべてを念頭に、外国語学習の動機づけを明確にする目的で開講されます。

学習の到達点を確認するためには、様々な方法があります。多くの語種に検定試験があり、客観的な力を確かめることができます。一方で、「**語検定〇級」に合格したり、TOEIC®L&Rテストのスコアを見ても、実際にその言語を用いて何ができるかははっきりとわかりません。そこで政策科学部では、EUで用いられているCEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を参考にして開発した本学部生のためのCan-Do-List (「できることリスト」) を「学びのものさし」として、言語学習の目標を示し、到達を測ります。付録にCEFR Can-Do-Listが載っていますが、それぞれの科目が目標とする「できること」が記されています。「3.5 科目概要」とシラバスとあわせて確認し、その言語を用いて「できること」の範囲をひろげ、さらに高いレベルを求めて努力してください。

(2) 語種選択

1回生秋学期開講の「LGA入門」では、10の外国語全てについて、専門家が各語種と政策課題についての説明を行います。10語種全ての説明を聞いた後、研究実践フォーラムの開講フィールドや自分の研究関心にあわせて語種の選択をしてください。なお、第一言語(母語またはそれに相当するレベル)を選択することはできません。確定した語種を変更することはできません。

(3) 卒業に必要な単位

グローバル言語科目 (LGA) より8単位以上を修得しなければなりません。

(4) 再履修について

2回生で選択した語種のうち、基礎1、2、展開1、2のいずれかが修得できなかった科目は、3回生以降に前年度と同じ語種、同じクラスで再度履修してください(原級復帰)。語種およびクラスの変更は原則できません。

(5) LGA 3回生配当科目の履修について

LGA 3回生配当科目(〇〇で学ぶ文化・社会1、2、映像・CALLで学ぶ〇〇1、2、〇〇・異文化コミュニケーション1、2)については、当該語種の基礎1、2、展開1、2をすべて修得しなければ、履修できません。

(6) 初修外国語・既修者対応プログラムについて(対象者のみ)

1. 意義と目的

初修外国語・既修者対応プログラムは、高校の授業や海外生活などで既に初修外国語を学んだ人(既修者)が継続して学習できるよう設定しており、これまで培ってきた力を一層伸ばすことを目的としています。

このプログラムでは、通常のLGA科目履修に代えて、3回生以上で履修する選択科目などとの組み合わせで履修し、LGA科目の卒業に必要な単位を修得していくことになります。

2. 対象言語

ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語

3. 受講資格

下記の①～③のいずれかの資格に該当する学生。

- ① 高等学校等で、当該言語について4単位相当以上履修し、一定のレベルに到達している学生【参考：1単位は45分授業を週1回・1年間学習するものとする】
- ② 原則として、当該の言語圏で1年間以上在住し帰国した学生
- ③ 上記①・②と同等レベルの語学力がある学生

4. 受講申込

このプログラムを履修するためには、下記①・②の手続きを行ってください。

- ① 「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、締切までにWEBから申し込みをしてください。
- ② その上で、新入生オリエンテーション期間中に実施する既修者対応プログラムガイダンスに出席してください。オリエンテーション時に履修の適性を判断します。

※受講許可後、各自、受講本登録期間にmanaba+RからCAMPUS WEBにログインし、受講登録を行います（このプログラムは、原則として1回生春学期から受講します）。

5. 履修方法

政策科学部のLGA各語種の基礎・展開科目を履修せず、同科目に代えて、既修者プログラム用の科目より8単位以上履修します。既修者プログラム用科目については、「初修外国語・既修者対応プログラム」WEBページにて配布、または言語教育センターにて配布します。

※既修者プログラム科目に加えて、希望者は秋 semester にLGA入門（2単位）を受講することも可能ですが、LGA入門は本来、語種を選択するための科目であり、初修外国語既修者対応プログラムの学生は必ずしも受講する必要はありません。

初修外国語・既修者対応プログラム用科目

科目名	単位数	開講期間
〇〇・異文化コミュニケーション1	2	春
〇〇・異文化コミュニケーション2	2	秋
映像・CALLで学ぶ〇〇1	2	春
映像・CALLで学ぶ〇〇2	2	秋
〇〇で学ぶ文化・社会1	2	春
〇〇で学ぶ文化・社会2	2	秋

※〇〇には、German、French、Chinese、Spanish、Korean の各言語名称が入ります。

6. 単位未修得の場合

卒業に必要な単位数を修得していない場合、単位未修得の既修者プログラム用科目を次年度に再度履修します。

7. プログラム辞退について

LGA各語種の基礎・展開科目に代えて既修者対応プログラムの科目を受講するため、プログラムの辞退はできません。

8. その他注意事項について

既修者対応プログラムが適用された場合、他語種のLGA科目を履修することはできません。

2.3.1 意義と目標

2.3.2 公共政策系—社会的合理性を学ぶ

2.3.3 環境開発系—科学的合理性を学ぶ

「政策科学科目」は政策科学を学ぶにあたって中心的な科目にあたります。

政策科学科目は、現代的な政策課題の事例研究や事例研究の前提になる政策分析の理論をより深く学ぶ科目が置かれています。過去の政策事例の成功例や失敗例を学ぶことは、今日の政策問題を理解し、明日の問題解決を構想する上でとても大切なことです。そして、政策分析の理論を学ぶということは、しっかりとした問題解決の着眼点を身につけるということです。

政策科学部では、問題解決の着眼点のうち、次の三つを重視しています。少し難しい言い方になりますが、これらを三つの合理性の考え方としてまとめることができるでしょう。それぞれの合理性の着眼点は、三つの学系—「公共政策系」・「環境開発系」・「社会マネジメント系」—に対応しています。ここでは、三つの系の概要を紹介します。各系の開講科目と概要については、「3.5 科目概要」を参照してください。

行政機関の活動は、住民や企業など広範囲に影響を及ぼすため、政策の立案・実施にはバランス感覚と広い視野が必要です。公共政策系は、公共政策が実現されるプロセスを理解するとともに、政治学や法律学など様々な側面から実際の政策事例まで学ぶ学系（系列）です。

社会的合理性は、人びとの合意や同意の観点からみた合理性のことです。たとえば、人口爆発の問題で考えてみましょう。何とか人口の増加を抑止しなければならない。いろいろな手だてが考えられます。家族計画の考え方を教育によって普及させるというのもその一つでしょう。また、一般に社会が豊かになると、子供の数は減少すると言われていきますから、経済開発や経済成長をまず促そうという考え方もあるでしょう。しかし、どちらの考え方とも不確実性を免れません。全ての人びとが教えられた通りに家族計画を実践するとは限りません。経済成長の効果が現われるまでには時間がかかります。そこで、もっと確実な方法が提案されたとします。すなわち、強制的な不妊手術を男性または女性に施すという提案です。たしかに、これは効率的で合理的かもしれませんが、しかし、人権や個人の自由を大事にする立場からすると、これはとんでもない権力の濫用だということになるでしょう。人権や自由を大切にする人びとの社会では、けっして強制的な不妊手術という方法は受け入れられないでしょう。つまり、この政策提案には同意が得られないということです。

もしそうなら、政策によって社会問題を解決するという場合、人びとの合意や同意をどう取り付けるのか（合意形成）がとても大事だということになります。合意形成について考えるということは、民主主義の制度や歴史や動きを学ぶということです。そして、民主主義を取り巻く環境はどんどん変化しつづけます。そうした今日の社会的変化を念頭において、合意形成の仕組みと理念を学ぶことがとても大切です。

大量生産・大量廃棄の経済システム、地域格差など、様々な要因が絡む環境開発問題を扱います。公害など地域の問題から、貧困と紛争など地球レベルの課題まで、社会科学と自然科学の両面からのアプローチを行う学系（系列）です。

大きな川の両岸に街があるとします。人びとはその川を船で渡って行き来しています。ここに橋が架けられればどんなに便利なことでしょう。「橋を架ける」というのも政策による問題解決の一つです。その場合、どのような観点が重視されなければならないのでしょうか。

おそらく、架けられた橋を毎日、毎時間、毎分行き来する人や車の量についての予測が必要になります。その交通量にあわせて、橋をどのような材料でつくるのか、強度はどうすればよいのか、強風や大雨で増水したときの川の水流なども考慮されなければならないでしょう。

そういった点から構造計算も行われるでしょう。正確な計算が行われずに架けられた橋は、その上を行き来する人や車の重みに耐えられずに崩れてしまうかもしれません。

ここでは単純な構造物の設置といった例で説明しましたが、政策課題の中にはとりわけこうした科学的な計算や合理性が重視される領域があります。気象の変化をはじめとした自然現象の正確な観測や予測が必要な環境問題、人びとの往来など、人間行動の計算や予測が

2.3.4 社会マネジメント系—市場的合理性を学ぶ

大事な役割を果たす都市計画などが、その典型例です。自然環境の保全、駅前の再開発、廃棄物処理施設の設置など、私たちの身の回りには、このような課題が山積しています。そして、これらの課題を理解し、明日の解決をめざすために必要なのが、「科学的合理性」の観点です。

経済政策の理論や経営戦略、高齢化社会における福祉課題やジェンダー問題など、多様な領域をカバーします。ビジネスの最前線、NPOや行政機関など、政策の現場でリーダーとなる人材を育てます。

私たちは生きていく上で必要なもの（財やサービス）の多くを市場取引によって得ています。食べるもの、着るもの、住むところ、娯楽や趣味に必要なもの—みんなお金を出して買っています。必要なものや好きなものをお金で買う暮らしを正常に営むためには、収入と支出のバランスが大切です。収入のことを考えずに莫大な支出をしてしまうと大変なことになります。ですから、使えるお金をできるだけ効率的に使おうとします。

この「効率」という考え方が市場行動にはとても大切です。できるだけ小さな支出でできるだけ大きな利益を得たいと願うのはそういうことです。これは、個人の市場行動だけに該当するわけではありません。私たちに様々な商品を提供してくれる企業もまた同じです。商品を生産しているわけではありませんが、限られた税収を使って、私たちに様々なサービスを提供してくれる役所（公共団体）でも同じことです。個人や組織が正常な市場行動を行うことができるようにするための知識と技術のことを「マネジメント」と言います。「効率性」と「マネジメント」の発想は個人にも組織にも重要な意味をもっていますが、この発想のことをここでは「市場的合理性」と呼んでいます。

今日の政策課題の中には、企業や公共団体や非営利民間組織の「効率」と「マネジメント」が焦点になっているものが数多くあります。たとえば、積年の政策課題であり、早急に解決のための処方箋が求められている行財政改革などがその典型でしょう。組織がうまく活動するために必要なものを「資源」といいます。「資源」にはお金、人、知識や技術がありますが、これらの「資源」をできるかぎり効率的に活用するという視点が、今日の政策には求められています。

2.3.5 政策科学特別実習

この科目は広く社会の実務部門との連携で実践的な学習を深める目的で、政策科学部独自科目として開設されています。一般に「インターンシップ」と呼ばれていますが、政策科学部では、学部の正課科目としてこれを位置づけ、他の講義科目やゼミナールでの学習の幅と深さを広げる科目として位置づけられています。民間企業、地方公共団体、非営利民間組織などで実習的な学びが展開されています。

2.3.6 卒業に必要な単位

政策科学科目（PLC）分野より68単位以上を修得しなければなりません。

2.4 政策英語科目 (EPS) / English for Policy Science

2.4.1 意義と目標

政策科学部では外国語科目としての「英語を学ぶ科目」ではなく、政策科学に関わる様々なトピックや研究方法を「英語で学ぶ」ためのEnglish for Policy Science (EPS) という科目群があります。高校までに学んだ英語を積極的に授業で活用することにより、政策科学に関わる専門的な知識を英語で学ぶと同時に、英語に対する理解を深めることを目標とする科目群です。政策科学は人文科学・社会科学・自然科学を横断する学際的な学問分野ですが、政策科学の基礎概念、基礎理論の多くはヨーロッパやアメリカの学術研究の成果に基づいています。このため、英語で学ぶことは、政策科学の基礎を理解する上で重要な筋道なのです。また、昨今の政策課題・政策争点の国際化のため、英語で情報を収集し、分析し、理解するというプロセスが今まで以上に求められています。外国の政策事例を学んだり、また日本の政策研究を外国での政策実践に活かす構想を実現するためにも英語で専門的な内容を学ぶことは必須です。このため、政策科学部では英語で専門分野を学ぶ科目群 (EPS) を、専門科目の一部として位置づけているのです。

EPS科目は次の3つのタイプ (Type A～Type C) に分類されます。分類の基準は①学習素材の言語、②授業内アクティビティの言語、③成績評価対象 (試験答案、報告書等の成果物) の言語が、それぞれ英語なのか日本語なのかによります。

Type Aは、上の3つの言語 (①②③) の全てが英語です。教養的な内容を含む科目、専門基礎的な科目、専門科目など内容は多岐にわたりますが、授業そのものの使用言語が英語ですので、将来、留学を希望する学生にとっては、留学に必要なアカデミックな英語力を総合的に高めることができる授業です。また留学生と共に英語で学ぶ本学部CRPS専攻開講科目を受講する準備にもなります。また一部の科目は実際に英語基準の留学生が受講しますので、クラス内で教員のみならず留学生ともintercultural communicationを実践する場ともなります。

Type Bは上記の①～③のうち、①を英語とするものです。入門レベルから高度に専門的なものまで含めて、政策科学の学習に必要な基本概念、理論、争点を概説する英語文献を講読する授業を行います。また、授業によってはアカデミックな英語のリスニングを行います。専門的な英語はきちんとした論理構造に基づいて書かれています。専門的な英語を学ぶことで、学問的な知識を深めるだけでなく、論理的かつ批判的に思考する能力も養うことを目標としています。

Type Cは上記①～③のうち③を英語とし、PBL (Project-Based Learning) 型の英語学習を中心に組み立てられます。学習の成果物を授業内成績評価の対象だけでなく、何らかの程度と意味における社会貢献に結びつけるプロジェクトとして授業が編成されます。プロジェクト例としては、日本語を理解しない外国人のために、日本の地域、文化や社会に関わる英語化されていない重要な情報を英語化するものや、立命館大学の広報ビデオなど日本語の動画に、英語の字幕をつけるなどのものがあります。

学習の到達点の確認のためには、様々な方法があります。多くの語種に検定試験があり、客観的な力を確かめることができます。一方で、「**語検定〇級」に合格したり、TOEIC®L&Rテストのスコアを見ても、実際にその言語を用いて何ができるかははっきりとわかりません。そこで政策科学部では、EUで用いられているCEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を参考にして開発した本学部生のためのCan-Do-List (「できることリスト」) を「学びのものさし」として、言語学習の目標を示し、到達を測ります。付録にCEFR Can-Do-Listが載っていますが、それぞれの科目が目標とする「できること」が記されています。「3.5 科目概要」とシラバスとあわせて確認し、その言語を用いて「できること」の範囲をひろげ、さらに高いレベルを求めて努力してください。

2.4.2 卒業に必要な単位

政策英語科目 (EPS) 分野より8単位以上を修得しなければなりません。なお、英語を使用語とする小集団科目クラスや英語を用いて政策科学を学ぶ科目 ((EPS) が科目名の後に付いている科目)、CRPS専攻開講科目の修得単位もEPSとして卒業に必要な単位に含まれます。

2.4.3 EPS科目一覧

Type	科目名	単位数	配当回生	科目分野
A	Contemporary Issues in Policy Science I (EPS-A)	2	1	PLC
	Contemporary Issues in Policy Science II (EPS-A)	2	1	PLC
	Academic Workshop (EPS-A)	2	1	PLC
	Research Workshop (EPS-A)	2	1	PLC
	Field Research Work Shop (EPS-A)	2	2	PLC
	Policy Studies I (EPS-A)	2	2	PLC
	Policy Studies II (EPS-A)	2	2	PLC
	Policy Studies III (EPS-A)	2	3	PLC
	EPS Special Seminar I (EPS-A)	2	1	PLC
B	Introduction to Social Science I (EPS-B)	2	1	PLC
	Introduction to Social Science II (EPS-B)	2	1	PLC
	Area Studies Reading (EPS-B)	2	2	VB
	Policy Science Reading I (EPS-B)	2	2	PLC
	Policy Science Reading II (EPS-B)	2	2	PLC
	Policy Science Reading III (EPS-B)	2	2	PLC
	Policy Science Reading IV (EPS-B)	2	3	PLC
	Policy Science Reading V (EPS-B)	2	3	PLC
	Policy Science Reading VI (EPS-B)	2	3	PLC
	EPS Special Seminar II (EPS-B)	2	1	PLC
C	EPS Project I (EPS-C)	2	1	PLC
	EPS Project II (EPS-C)	2	1	PLC
	EPS Project III (EPS-C)	2	1のみ	PLC
	EPS Project IV (EPS-C)	2	2	PLC
	EPS Project V (EPS-C)	2	2のみ	PLC
	EPS Project VI (EPS-C)	2	3	PLC
	EPS Project VII (EPS-C)	2	3のみ	PLC
	EPS Project VIII (EPS-C)	2	4	PLC
	EPS Special Seminar III (EPS-C)	2	1	PLC
	PLC特殊講義 (EPS)	2	1	PLC
※1	研究実践フォーラム I (EPS)	2	2	PLC
	研究実践フォーラム II (EPS)	2	2	PLC
	政策構想演習 I (EPS)	2	3	PLC
	政策構想演習 II (EPS)	2	3	PLC
	政策構想演習 III (EPS)	2	4	PLC

※1 募集の際にEPS科目として開講すると示されたクラスのみEPS科目としてみなします。

2.4.4 CRPS専攻科目の履修について

政策科学部政策科学科Community and Regional Policy Studies専攻（CRPS専攻）開講科目を履修することでEPS科目の単位として認定されます。ただし、履修にあたっては、特に条件等が示されない限りTOEFL ITP®テスト530もしくはTOEIC®L&Rテスト660以上のスコアが求められます。詳細については各担当教員に相談し各科目のシラバスの内容や履修条件をよく調べた上で履修をしてください。履修できる科目・算入される科目区分は、以下の通りです。なお、合計12単位を限度に卒業に必要な単位として含めることができます。

CRPS分野名	科目名	配当回生	認定科目分野
Vision Building Subjects	Foundation Course to Policy Science I ～Ⅶ	1 回生	ヴィジョン科目 (VB) EPS
	General Education Course I ～Ⅲ		
	Vision Building Special Lecture I ～Ⅳ		
Introductory Lectures	Studies of Political Process	2 回生	政策科学基礎科目 (MP) EPS
	Introduction to Mathematics for Policy Studies		
	Theories of Justice		
	Macroeconomics for Policy Studies		
	Microeconomics for Policy Studies		
	Constitutional Law		
	Civil Law		
Policy Science Subjects	Policy Science Special Lecture	1 回生	政策科学科目 (PLC) EPS
	Cross Border Policy Issues	2 回生	
	Multi-level Governance I ～Ⅷ		
	Regional Economy and Development I ～Ⅷ		
	Sustainable Urban Policy I ～Ⅷ		

2.5 R+科目

2.5.1 R+科目について

R+科目は、政策科学部の学びを発展させたり、広い視野を得ることができる、他学部専門科目、外国留学科目、日本語科目（留学生のみ）等が含まれます。R+科目においては、合計12単位を限度に卒業に必要な単位として含めることができます。

2.5.2 他学部専門科目の受講について

本学では総合大学としてのメリットをいかすために他学部で開講されている専門科目を受講できます。全ての専門科目が受講できるわけではありませんので、「他学部受講許可科目一覧」で確認してください。

（1）登録方法・登録できる単位数

「他学部受講許可科目一覧」で示されている登録方法に従い、他の科目と同様に登録を行ってください。既に修得した単位を含めて12単位を上限に登録をすることができます。

（2）受講資格

3 回生以上

（3）単位認定

他にR+科目として認定された単位とあわせて12単位を上限に卒業に必要な単位として認定されます。

2.5.3 日本語科目の受講について（留学生のみ）

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得することができるようにR+科目として、日本語を履修できるようにしています。

外国人留学生は、受講を希望する場合、事前に申請することで日本語科目を受講することができます。修得した単位は、他にR+科目として授与された単位とあわせて12単位を上限に卒業に必要な単位として認定されます。

（1）日本語科目の履修について

「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則です。ただし2 回生以降、1 回生配当科目を再履修しながら2 回生配当科目を履修することは認められます。

（2）単位修得要件について

日本語科目では、単位修得の最低要件として、授業への出席回数が定められています。詳細は、オンラインシラバスを確認してください。

日本語科目一覧

配当回生	科目名	単位数	開講時間
1 回生	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現 b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ (読解 a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (読解 b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭 b)	1	秋semester
2 回生以上	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語 b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語 b)	1	秋semester

2.6 自由科目

自由科目とは、単位を修得しても卒業に必要な単位数に算入されない科目です。なお、これらの科目を受講登録しても受講登録上限単位数に含まれません。

2.7 政策科学部学部則

学部則については、ホームページに記載しています。
manaba + Rの「政策科学部生のページ」→「政策科学部の履修」→「学部則」をクリック

3. 政策科学部のカリキュラムについて②

3.1 カリキュラム表（2022年度以降入学者適用）

卒業に必要な単位数の詳細は、P.12以降を確認してください。（以下に加えてEPSで8単位以上必要）

	配当年次		1 回生		2 回生		3 回生		4 回生	
科目区分	セメスター		春セメスター	秋セメスター	春セメスター	秋セメスター	春セメスター	秋セメスター	春セメスター	秋セメスター
MLC 学術俯瞰科目 (44単位以上) Meta-learning Courses	VB ヴィジョン科目 (8単位以上) Vision Broadening	ヴィジョン 基礎科目	災害と安全 法学基礎Ⅰ 法学基礎Ⅱ APU交流科目②④ EPS Vision Broadening①～⑤ EPS Foreign Area Studies Reading①～③		比較制度 Area Studies Reading (EPS-B)		社会思想史			
		ヴィジョン 展開科目	哲学と人間 人間性と倫理 心理学入門 科学技術と倫理 ジェンダーとダイバーシティ 社会学入門 文化人類学入門 文学と社会 現代の教育 世界の言語と文化 映像と表現 美と芸術の論理 メディアと現代文化 世界と日本の食文化 情報技術と社会 映像メディア実践入門 歴史観の形成 エリアスタディ入門 新しい日本史像 中国の国家と社会 東アジアと朝鮮半島 ヨーロッパの歴史 アメリカの社会と文化 イスラーム世界の多様性 科学的な見方・考え方 宇宙科学 地球科学 生命科学(分子と生命) 生命科学(生物と生態系) 科学と技術の歴史 生命科学と倫理 科学・技術と社会 近現代の科学技術 数理の世界 情報の数理 現代平和論 戦争の歴史と思想 宗教と社会 メンタルヘルス 観光学 京都学 異文化間テーマ演習 Liberal Arts Seminar, Modern World History, Japan and the West, Kyoto and the Japanese Arts, Special Lecture, Introduction to Linguistics, Introduction to Anthropology, Introduction to Natural Science, Introduction to Humanities, Introduction to the United Nations, Introduction to Peace Studies, Introduction to Gender Studies, Introduction to Computational Linguistics, History of Computing, Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities, Understanding Language, Computers in Education, Language in Politics, Cross-cultural Studies Introductory Course to Climate Change and Global Warming, Introductory Course to International Project Development, Understanding Visual Culture, Introduction to Food Culture, Cross-cultural Encounters 2, Non-verbal Communication, Academic Skills 1, Academic Skills 2, Cross-cultural Seminar, Playing with Playfulness, Introduction to Global Justice, Sustainable Development Goals in a Nutshell, スポーツの歴史と発展 スポーツと現代社会 スポーツのサイエンス 現代人とヘルスケア スポーツ方法実習Ⅰ① スポーツ方法実習Ⅱ① データサイエンス・AI基礎 データエンジニアリング基礎 Foundation of Data Science and AI Foundation of Data Engineering (1・2回生のみ)日本の近現代と立命館 国の行政組織 学びとキャリア 地域参加学習入門 Cross-cultural Encounters 1 ピア・サポート論 (1～3回生のみ)Global Engineer Program (留学生のみ)(留)日本の社会・政治 (留)日本の経済・経営 (留)日本の文化・地理・歴史 (留)日本の自然・科学技術		仕事とキャリア 平和人権フィールドスタディ シチズンシップ・スタディーズ コーオプ演習(理論) コーオプ演習(実践) <留学生のみ>(留)日本語学 <2・3回生のみ>University of Hawaii Program					
		海外留学プログラ ム(単位授与科目)	グローバル社会の体験と理解 Intensive Language Workshop, Language for Academic Communication, Global Project-Based Learning, Area StudyⅠ, Area StudyⅡ④, Global Study④, Academic Communication(Online Learning), Area Study(Online Learning)							
		VB特殊講義	ヴィジョン特殊講義							
		IM(8単位以上) Information and Methods	●政策情報処理 IM特殊講義 ●調査分析技法入門 EPS Information and Methods①～③ 統計学	情報科学入門 プログラミング データ分析 フィールド調査法	社会調査法 地域空間分析 ゲーミング&シミュレーション	情報技術マネジメント	地域環境調査Ⅰ・Ⅱ(社会調査士実習科目)※1			
		MP(10単位以上) Meta-policy	政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 公共政策 現代経営学入門 ミクロ経済学入門 サステイナビリティ学入門 政策工学入門 まちづくり入門		憲法 政治過程論 政策過程論 環境科学 マクロ経済学入門 国際学入門		公共哲学 政治文化論			
		LGA(8単位以上) Language for Global Actions	LGA特殊講義①～②、LGA Special Seminar①～③	●LGA入門	○○基礎1、○○基礎2① ※○○には、Chinese、Korean、Vietnamese、 Thai、Indonesian、French、German、Spanish、 Russian、Italian 各言語名称が入ります。	○○展開1、○○展開2① ※○○には、Chinese、Korean、Vietnamese、 Thai、Indonesian、French、German、Spanish、 Russian、Italian 各言語名称が入ります。	○○で学ぶ文化・社会1 2、映像・CALLで学ぶ○○1 2、 ○○・異文化コミュニケーション1 2 ※○○には、Chinese、Korean、Vietnamese、Thai、Indonesian、 French、German、Spanish、Russian、Italian 各言語名称が入り ます。ただし、Vietnamese、Thai、Indonesian、Russian、Italian の5語種は、○○・異文化コミュニケーション1 2のみとなります。			
PLC 政策科学科目 (68単位以上) Policy-learning Courses	公共政策				民法Ⅰ(契約法) 民法Ⅱ(金融法) 行政法Ⅰ 国際機構論 日本政治史 比較文化論 政策評価 情報社会論 日本と東南アジアの地方自治体 グローバル・ガバナンス *国際公共政策 *国際政治経済論 Policy Science ReadingⅠ(EPS-B)		行政法Ⅱ 現代政治理論 行政学Ⅰ 行政学Ⅱ 政治意識論 地域政策論 Policy Science ReadingⅣ(EPS-B) 債権法			
	社会マネジメント				Policy Science ReadingⅡ[EPS-B] 公共経済学 財政学 コミュニティ福祉論 *雇用政策論 戦略経営論 非営利組織論 都市経済論 企業組織論 開発経済論 比較福祉社会論 金融論 国際経済学		地域経済論 ビジネスプラン 福祉経済論 社会福祉政策 バブリック・マネジメント論 Policy Science ReadingⅤ[EPS-B] 地方財政論 社会的企業論 消費者行動論 組織ネットワーク論 戦略分析 財務分析			
	環境開発				Policy Science ReadingⅢ[EPS-B] 住宅政策論 都市計画 エコライフ政策		政策分析 Policy Science ReadingⅥ[EPS-B] コミュニティ防災論 都市・環境法 システム科学 都市・環境法 環境社会学			
	系共通 演習 実習 特講		政策科学特別実習1①～④ EPS Special SeminarⅠ(EPS-A) APU交流科目②④ PLC特殊講義①～⑧ EPS Special SeminarⅡ(EPS-B) EPS Foreign Seminar①～⑤ EPS Special SeminarⅢ(EPS-C) ●政策科学入門 ●基礎演習 Contemporary Issues in Policy ScienceⅠ[EPS-A] Academic Workshop[EPS-A] Introduction to Social SciencesⅠ[EPS-B] EPS ProjectⅠ[EPS-C] 国際PBLセミナー1・2[EPS]		オンサイト調査演習 政策科学特別実習2①～④ ■研究実践フォーラムⅠ Field Research Work Shop[EPS-A] Policy StudiesⅠ[EPS-A] 東南アジアの宗教 EPS ProjectⅣ[EPS-C] クリティカル・シンキング		政策科学特別実習3①～④ ●政策構想演習Ⅰ ●政策構想演習Ⅰ[EPS] EPS ProjectⅥ[EPS-C] Policy StudiesⅢ[EPS-A]		★学士論文④ ●政策構想演習Ⅱ ●政策構想演習Ⅱ[EPS] 集中セミナー①② (3回生のみ)EPS ProjectⅦ[EPS-C]	
	R+(12単位を上限に算入可)		外国留学科目①～⑧ 日本語科目(留学生のみ)※2				他学部受講科目			

1. ○内の数字は単位数、特に表記していない科目は2単位。
2. ●は、登録必修科目(=該当回生が必ず登録しなければならない科目。単位を修得できていなくても卒業要件には関らない。)
3. ■は、配当回生履修指定科目(=該当回生が極力履修しなければならない科目、単位を修得できていなくても卒業要件には関らない。)
4. ※1の地域環境調査は、Ⅰ・Ⅱあわせて1つの調査実習になっているため、両科目受講する必要があります(Ⅱは事務室登録)。どちらか一方のみの受講はできません。
5. ★必修科目(単位を修得しなければ卒業できません)
6. *は、隔年開講となる場合があります。
7. 年度により、春セメスターと秋セメスターが入れ替わる場合があります。開講セメスターは、時間制表で確認してください。
8. ※2の日本語科目の詳細は、P.26をご確認ください。

3.2 カリキュラムツリー

ヴィジョン科目 (VB)

1 回生

【ヴィジョン基礎科目】

災害と安全
法学基礎 I
法学基礎 II
EPS Vision Broadening
EPS Foreign Area Studies Reading
APU交流科目

【ヴィジョン展開科目】

哲学と人間
人間性と倫理
心理学入門
科学技術と倫理
ジェンダーとダイバーシティ
社会学入門
文化人類学入門
文学と社会
現代の教育
世界の言語と文化
映像と表現
美と芸術の論理
メディアと現代文化
歴史観の形成
エリアスタディ入門
新しい日本史像
中国の国家と社会
東アジアと朝鮮半島
ヨーロッパの歴史
アメリカの社会と文化
イスラーム世界の多様性
科学的な見方・考え方
宇宙科学
地球科学
生命科学(分子と生命)
生命科学(生物と生態系)
科学と技術の歴史
生命科学と倫理
科学・技術と社会
近現代の科学技術
数理の世界
情報の数理
現代平和論
戦争の歴史と思想
世界と日本の食文化
映像メディア実践入門
宗教と社会
メンタルヘルス
観光学
京都学
情報技術と社会
Liberal Arts Seminar
Modern World History
Japan and the West
Kyoto and the Japanese Arts
Introduction to Humanities
Introduction to the United Nations
Introduction to Peace Studies
Introduction to Gender Studies
Introductory Course to Climate Change and Global Warming
Introductory Course to International Project Development
Understanding Visual Culture
Introduction to Food Culture
Special Lecture
Introduction to Linguistics
Introduction to Anthropology
Introduction to Natural Science
Introduction to Computational Linguistics
History of Computing
Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities
Understanding Language
Computers in Education
Language in Politics
Non-verbal Communication
Cross-cultural Encounters 1
Cross-cultural Encounters 2
Academic Skills 1
Academic Skills 2
Cross-cultural Seminar
Playing with Playfulness
Introduction to Global Justice
Sustainable Development Goals in a Nutshell
Cross-cultural Studies
地域参加学習入門
学びとキャリア
スポーツの歴史と発展
スポーツと現代社会
スポーツのサイエンス
現代人とヘルスケア
スポーツ方法実習 I
スポーツ方法実習 II
データサイエンス・AI基礎
データエンジニアリング基礎
Foundation of Data Science and AI
Foundation of Data Engineering
異文化間テーマ演習
Global Engineer Program
日本の近現代と立命館
国の行政組織
ピア・サポート論
(留)日本の社会・政治
(留)日本の経済・経営
(留)日本の自然・科学技術
(留)日本の文化・地理・歴史

2 回生

【ヴィジョン基礎科目】

比較制度

Area Studies Reading (EPS-B)

【ヴィジョン展開科目】

シナジー・スタディーズ

仕事とキャリア

University of Hawaii Program

(留)日本語学

平和人権フィールドスタディ

コーポ演習(理論)

コーポ演習(実践)

3 回生

【ヴィジョン基礎科目】

社会思想史

政策科学基礎科目 (MP)

1 回生

政治学 I
政治学 II
現代経営学入門
ミクロ経済学入門
政策工学入門
サステイナビリティ学入門
公共政策
まちづくり入門

2 回生

憲法
政治過程論
国際学入門
環境科学
マクロ経済学入門
政策過程論

3 回生

公共哲学
政治文化論

情報技法科目 (IM)

1 回生

政策情報処理
調査分析技法入門
統計学
情報科学入門
フィールド調査法
データ分析
プログラミング

2 回生

社会調査法
地域空間分析
情報技術マネジメント
ゲーミング&シミュレーション

3 回生

地域環境調査 I
地域環境調査 II

グローバル言語科目 (LGA)

1 回生

LGA入門

2 回生

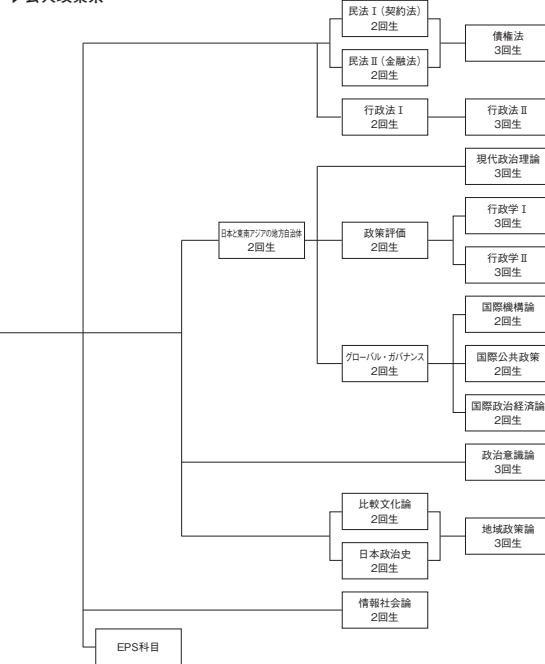
〇〇・基礎1
〇〇・基礎2
〇〇・展開1
〇〇・展開2

3 回生

〇〇で学ぶ文化・社会1
映像・CALLで学ぶ〇〇1
〇〇・異文化コミュニケーション1
〇〇で学ぶ文化・社会2
映像・CALLで学ぶ〇〇2
〇〇・異文化コミュニケーション2

※「〇〇」には語種が入ります。

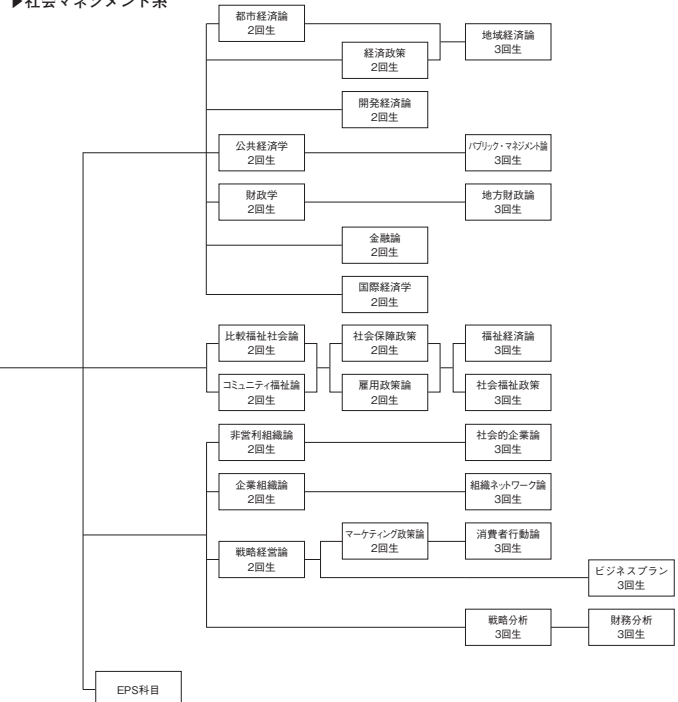
▶ 公共政策系



▶ 環境開発系



▶ 社会マネジメント系



政策科学科目・基礎科目等
系統履修図

I. 政策科学部の教育理念と
人材育成目的

II. 教育課程の編成と履修概要

III. 学びの支援・援助制度について

IV. 希望する履修科目・
学部横断プログラム

V. 大学院進学・資格取得
付録

3.3 カリキュラムマップ

科目分野	年	春・秋	必修/選択	科目名称	1-1. 幅広い世代からなる多様な価値観を持つ地域・国際社会に関心を持ち、成熟した市民社会での参加理念を重視する態度を持つ。	1-2. リーダーシップとネットワーク形成の意義を理解し、問題解決を図る意欲と態度を持つ。	2. ローカルかつグローバルな視点をお互い合わせ持ち、総合的な社会科学の素養に基づき、現代の政策課題を理解することができる。	3. 政策を実践し構想するための社会科学的情報科学的分析手法と外国語能力、基礎的な技能(資料読解力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、文章作成力)を身につける。	4. 人類の普遍的な価値規範(平和と民主主義、人権、公共性など)に立脚した、問題解決指向的に思考と判断をすることができる。	科目 ナンバー
VB	1	春・秋	選択	災害と安全	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	法学基礎Ⅰ	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	法学基礎Ⅱ	○		○			CPSVB1J
VB	2	春・秋	選択	比較制度	○		○			CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	Area Studies Reading (EPS-B) (東南アジア英語文献講読)				○		CPSVBE2J
VB	2	春・秋	選択	Area Studies Reading (EPS-B) (欧州北米英語文献講読)				○		CPSVBE2J
VB	2	春・秋	選択	Area Studies Reading (EPS-B) (中国・韓国・ユーラシア英語文献講読)				○		CPSVBE2J
VB	3	春・秋	選択	社会思想史	○		○			CPSVB3J
VB	1	春・秋	選択	哲学と人間	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	人間性と倫理	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	心理学入門	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	科学技術と倫理	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	ジェンダーとダイバーシティ	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	社会学入門	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	文化人類学入門	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	文学と社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	現代的教育	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	世界の言語と文化	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	映像と表現	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	美と芸術の論理	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	メディアと現代文化	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	歴史観の形成	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	エリアスタディ入門	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	新しい日本史像	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	中国の国家と社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	東アジアと朝鮮半島	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	ヨーロッパの歴史	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	アメリカの社会と文化	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	イスラーム世界の多様性	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	科学的な見方・考え方	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	宇宙科学	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	地球科学	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	生命科学(分子と生命)	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	生命科学(生物と生態系)	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	科学と技術の歴史	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	生命科学と倫理	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	科学・技術と社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	近現代の科学技術	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	数理の世界			○	○		CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	情報の数理			○	○		CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	現代平和論	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	戦争の歴史と思想	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	世界と日本の食文化	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	映像メディア実践入門	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	情報技術と社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	宗教と社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	メンタルヘルス	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	観光学	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	京都市	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	Liberal Arts Seminar	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Modern World History	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Japan and the West	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Kyoto and the Japanese Arts	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Humanities	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to the United Nations	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Peace Studies	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Gender Studies	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introductory Course to Climate Change and Global Warming	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introductory Course to International Project Development	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Understanding Visual Culture	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction To Food Culture	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Special Lecture	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Linguistics	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Anthropology	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Natural Science	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Computational Linguistics	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	History of Computing	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Understanding Language	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Computers in Education	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Language in Politics	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Non-verbal Communication	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Cross-cultural Encounters 2	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Academic Skills 1	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Academic Skills 2	○		○	○		CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Cross-cultural Seminar	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Cross-cultural Studies	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	スポーツの歴史と発展	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	スポーツと現代社会	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	スポーツのサイエンス	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	現代人とヘルスケア	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	スポーツ方法実習Ⅰ	○			○		CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	スポーツ方法実習Ⅱ	○			○		CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	異文化間テーマ演習	○		○			CPSVB1J

II. 教育課程の編成と履修概要

科目分野	年	春・秋	必修/選択	科目名称	1-1. 幅広い世代からなる多様な価値観を持つ地域・国際社会に関心をもち、成熟した市民社会での参加理念を重視する態度を持つ。	1-2. リーダーシップとネットワーク形成の意義を理解し、問題解決を図る意欲と態度を持つ。	2. ローカルかつグローバルな視点をあわせ持ち、総合的な社会科学の素養に基づき、現代の政策課題を理解することができる。	3. 政策を実践し構想するための社会科学的情報科学的分析手法と外国語能力、基礎的な技能(資料読解力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、文章作成力)を身につける。	4. 人類の普遍的な価値規範(平和と民主主義、人権、公共性など)に立脚した、問題解決指向的に思考と判断をすることができる。	科目 ナンバー
VB	1・3	春・秋	選択	Global Engineer Program	○		○			CPSVB1M
VB	1・2	春・秋	選択	日本の近現代と立命館	○		○			CPSVB1J
VB	1・2	春・秋	選択	国の行政組織	○		○			CPSVB1J
VB	1・2	春・秋	選択	学びとキャリア	○		○			CPSVB1J
VB	1・2	春・秋	選択	地域参加学習入門	○	○				CPSVB1J
VB	1・2	春・秋	選択	Cross-cultural Encounters 1	○		○			CPSVB1E
VB	1・2	春・秋	選択	ピア・サポート論	○	○				CPSVB1J
VB	2	春・秋	選択	シチズンシップ・スタディーズ	○	○				CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	全学インターンシップ	○	○				CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	仕事とキャリア	○	○				CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	平和人権フィールドスタディ	○		○			CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	コーオプ演習(理論)	○	○				CPSVB2J
VB	2	春・秋	選択	コーオプ演習(実践)	○	○				CPSVB2J
VB	2・3	春・秋	選択	University of Hawaii Program	○		○			CPSVB2E
VB	1	春・秋	選択	(留)日本の社会・政治	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	(留)日本の経済・経営	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	(留)日本の自然・科学技術	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	(留)日本の文化・地理・歴史	○		○			CPSVB1J
VB	2	春・秋	選択	(留)日本語学	○		○			CPSVB2J
VB	1	春・秋	選択	ヴィジョン特殊講義	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	データサイエンス・AI基礎	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	データエンジニアリング基礎	○		○			CPSVB1J
VB	1	春・秋	選択	Foundation of Data Science and AI	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Foundation of Data Engineering	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Playing with Playfulness	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Introduction to Global Justice	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Sustainable Development Goals in a Nutshell	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	グローバル社会の体験と理解	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Intensive Language Workshop	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Language for Academic Communication	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Global Project-Based Learning	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Area Study I	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Area Study II	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Global Study	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Academic Communication (Online Learning)	○		○			CPSVB1E
VB	1	春・秋	選択	Area Study (Online Learning)	○		○			CPSVB1E
IM	1	春・秋	選択	統計学				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	調査分析技法入門				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	政策情報処理				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	情報科学入門				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	フィールド調査法				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	データ分析				○	○	CPSIM1J
IM	1	春・秋	選択	プログラミング				○	○	CPSIM1J
IM	2	春・秋	選択	社会調査法				○	○	CPSIM2J
IM	2	春・秋	選択	地域空間分析				○	○	CPSIM2J
IM	2	春・秋	選択	情報技術マネジメント				○	○	CPSIM2J
IM	2	春・秋	選択	ゲーミング&シミュレーション				○	○	CPSIM2J
IM	3	春・秋	選択	地域環境調査Ⅰ				○	○	CPSIM3J
IM	3	春・秋	選択	地域環境調査Ⅱ				○	○	CPSIM3J
MP	1	春・秋	選択	公共政策			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	サステイナビリティ学入門			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	まちづくり入門			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	ミクロ経済学入門			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	現代経営学入門			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	政治学Ⅰ			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	政治学Ⅱ			○		○	CPSMP1J
MP	1	春・秋	選択	政策工学入門			○		○	CPSMP1J
MP	2	春・秋	選択	憲法			○		○	CPSMP2J
MP	2	春・秋	選択	環境科学			○		○	CPSMP2J
MP	2	春・秋	選択	政治過程論			○		○	CPSMP2J
MP	2	春・秋	選択	マクロ経済学入門			○		○	CPSMP2J
MP	2	春・秋	選択	政策過程論			○		○	CPSMP2J
MP	2	春・秋	選択	国際学入門			○		○	CPSMP2J
MP	3	春・秋	選択	政治文化論			○		○	CPSMP3J
MP	3	春・秋	選択	公共哲学			○		○	CPSMP3J
LGA	1	春・秋	選択	LGA入門	○			○		CPSLGA1J
LGA	2	春・秋	選択	Chinese・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Chinese・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Chinese・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Chinese・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Korean・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Korean・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Korean・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Korean・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Vietnamese・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Vietnamese・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Vietnamese・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Vietnamese・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Thai・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Thai・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Thai・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Thai・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Indonesian・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Indonesian・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Indonesian・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Indonesian・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	French・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	French・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	French・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	French・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	German・基礎1	○			○		CPSLGA2J

I. 政策科学部の教育理念と人材育成目的

II. 教育課程の編成と履修概要

III. 学びの支援・援助制度について

IV. 希望者履修科目・学部横断プログラム

V. 大学院進学・資格取得

付録

科目分野	年	春・秋	必修/選択	科目名称	1-1. 幅広い世代からなる多様な価値観を持つ地域・国際社会に関心をもち、成熟した市民社会での参加理念を重視する態度を持つ。	1-2. リーダーシップとネットワーク形成の意義を理解し、問題解決を図る意欲と態度を持つ。	2. ローカルかつグローバルな視点をあわせ持ち、総合的な社会科学の素養に基づき、現代の政策課題を理解することができる。	3. 政策を実践し構想するための社会科学的情報科学的分析手法と外国語能力、基礎的な技能(資料読解力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、文章作成力)を身につける。	4. 人類の普遍的な価値規範(平和と民主主義、人権、公共性など)に立脚した、問題解決指向的に思考と判断をすることができる。	科目 ナンバー
LGA	2	春・秋	選択	German・基礎2	○					CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	German・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	German・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Spanish・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Spanish・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Spanish・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Spanish・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Russian・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Russian・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Russian・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Russian・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Italian・基礎1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Italian・基礎2	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Italian・展開1	○			○		CPSLGA2J
LGA	2	春・秋	選択	Italian・展開2	○			○		CPSLGA2J
LGA	3	春・秋	選択	Chineseで学ぶ文化・社会1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶChinese1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Chinese・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Chineseで学ぶ文化・社会2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶChinese2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Chinese・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Koreanで学ぶ文化・社会1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶKorean1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Korean・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Koreanで学ぶ文化・社会2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶKorean2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Korean・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Vietnamese・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Vietnamese・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Thai・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Thai・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Indonesian・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Indonesian・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Frenchで学ぶ文化・社会1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶFrench1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	French・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Frenchで学ぶ文化・社会2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶFrench2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	French・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Germanで学ぶ文化・社会1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶGerman1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	German・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Germanで学ぶ文化・社会2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶGerman2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	German・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Spanishで学ぶ文化・社会1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶSpanish1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Spanish・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Spanishで学ぶ文化・社会2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	映像・CALLで学ぶSpanish2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Spanish・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Russian・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Russian・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Italian・異文化コミュニケーション1	○			○		CPSLGA3J
LGA	3	春・秋	選択	Italian・異文化コミュニケーション2	○			○		CPSLGA3J
PLC	2	春・秋	選択	比較文化論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	日本政治史			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	情報社会論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	行政法Ⅰ			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	民法Ⅰ(契約法)			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	民法Ⅱ(金融法)			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	政策評価			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	Policy Science ReadingⅠ(EPS-B)			○		○	CPSPLCE2J
PLC	2	春・秋	選択	日本と東南アジアの地方自治体			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	国際機構論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	グローバル・ガバナンス			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	国際公共政策			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	国際政治経済論			○		○	CPSPLC2J
PLC	3	春・秋	選択	政治意識論			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	現代政治理論			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	地域政策論			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	行政学Ⅰ			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	行政学Ⅱ			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	行政法Ⅱ			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	債権法			○		○	CPSPLC3J
PLC	3	春・秋	選択	Policy Science ReadingⅣ(EPS-B)			○	○		CPSPLCE3J
PLC	3	春・秋	選択	消費者行動論			○		○	CPSPLC3J
PLC	2	春・秋	選択	非営利組織論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	公共経済学			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	都市経済論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	財政学			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	コミュニティ福祉論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	戦略経営論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	雇用政策論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	経済政策			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	社会保障政策			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	企業組織論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	マーケティング政策論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	Policy Science ReadingⅡ(EPS-B)			○	○		CPSPLCE2J
PLC	2	春・秋	選択	開発経済論			○		○	CPSPLC2J
PLC	2	春・秋	選択	比較福祉社会論			○		○	CPSPLC2J

II. 教育課程の編成と履修概要

科目分野	年	春・秋	必修/選択	科目名称	1-1. 幅広い世代からなる多様な価値観を持つ地域・国際社会に関心をもち、成熟した市民社会での参加理念を重視する態度を持つ。	1-2. リーダーシップとネットワーク形成の意義を理解し、問題解決を図る意欲と態度を持つ。	2. ローカルかつグローバルな視点をあわせ持ち、総合的な社会科学の素養に基づき、現代の政策課題を理解することができる。	3. 政策を実践し構想するための社会科学的情報科学的分析手法と外国語能力、基礎的な技能(資料読解力、論理的思考力、プレゼンテーション能力、文章作成力)を身につける。	4. 人類の普遍的な価値規範(平和と民主主義、人権、公共性など)に立脚した、問題解決指向的に思考と判断をすることができる。	科目ナンバ
PLC	2	春・秋	選択	金融論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	国際経済学			○		○	CPSPCL2J
PLC	3	春・秋	選択	福祉経済論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	パブリック・マネジメント論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	地方財政論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	地域経済論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	社会的企業論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	ビジネスプラン			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	組織ネットワーク論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	社会福祉政策			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	戦略分析			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	財務分析			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	Policy Science Reading V (EPS-B)			○	○		CPSPCL3J
PLC	2	春・秋	選択	コミュニティ政策論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	Policy Science Reading III (EPS-B)			○	○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	計画理論			○		○	CPSPCL2J
PLC	1	春・秋	選択	減災政策			○		○	CPSPCL1J
PLC	2	春・秋	選択	都市計画			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	住宅政策論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	エコライフ政策			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	都市景観論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	都市マネジメント論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	地域デザイン調査			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	資源エネルギー論			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	環境経済学			○		○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	国際環境政策			○		○	CPSPCL2J
PLC	3	春・秋	選択	システム科学			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	都市・環境法			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	政策分析			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	環境経営論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	環境社会学			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	コミュニティ防災論			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	戦略的環境アセスメント			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	交通計画			○		○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	Policy Science Reading VI (EPS-B)			○	○		CPSPCL3J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Special Seminar I (EPS-A)				○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Special Seminar II (EPS-B)			○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Special Seminar III (EPS-C)		○		○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Contemporary Issues in Policy Science I (EPS-A)			○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Contemporary Issues in Policy Science II (EPS-A)			○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Introduction to Social Sciences I (EPS-B)			○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Introduction to Social Sciences II (EPS-B)			○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	PLC特殊講義		○				CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	政策科学特別実習1		○				CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	政策科学入門	○		○		○	CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Academic Workshop (EPS-A)			○	○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	Research Workshop (EPS-A)			○	○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Project I (EPS-C)			○	○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Project II (EPS-C)			○	○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	EPS Project III (EPS-C)			○	○		CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	PLC特殊講義(Globalization in Asia)	○		○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	PLC特殊講義 (Strategic Analysis on Contemporary Global Issues)	○		○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	PLC特殊講義 (Comparative Studies in Globalizing Societies)	○		○			CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	国際PBLセミナー1 (EPS)		○			○	CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	国際PBLセミナー2 (EPS)		○	○			CPSPCL1J
PLC	2	春・秋	選択	東南アジアの宗教	○		○			CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	クリティカル・シンキング		○		○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	Policy Studies I (EPS-A)			○	○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	PLC特殊講義(次都市)	○		○			CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	政策科学特別実習2 (コミュニティ・ディベロップメント)		○				CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	政策科学特別実習2		○	○			CPSPCL2J
PLC	3	春・秋	選択	政策科学特別実習3		○	○			CPSPCL3J
PLC	2	春・秋	選択	Policy Studies II (EPS-A)			○	○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	Field Research Work Shop (EPS-A)			○	○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	EPS Project IV (EPS-C)			○	○		CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	EPS Project V (EPS-C)			○	○		CPSPCL2J
PLC	3	春・秋	選択	EPS Project VI (EPS-C)			○	○		CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	EPS Project VII (EPS-C)			○	○		CPSPCL3J
PLC	4	春・秋	選択	EPS Project VIII (EPS-C)			○	○		CPSPCL4J
PLC	3	春・秋	選択	Policy Studies III (EPS-A)			○	○		CPSPCL3J
PLC	1	春・秋	選択	基礎演習		○		○	○	CPSPCL1J
PLC	1	春・秋	選択	プロジェクト入門		○		○	○	CPSPCL1J
PLC	2	春・秋	選択	研究実践フォーラム I		○		○	○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	研究実践フォーラム II		○		○	○	CPSPCL2J
PLC	2	春・秋	選択	オンサイト調査演習		○		○		CPSPCL2J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーA31		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーA32		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーA41		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーA42		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーB31		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	集中セミナーB41		○			○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	政策構想演習 I			○	○	○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	政策構想演習 II			○	○	○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	政策構想演習 I (EPS)			○	○	○	CPSPCL3J
PLC	3	春・秋	選択	政策構想演習 II (EPS)			○	○	○	CPSPCL3J
PLC	4	春・秋	選択	政策構想演習 III			○	○	○	CPSPCL4J
PLC	4	春・秋	選択	政策構想演習 III (EPS)			○	○	○	CPSPCL4J
PLC	4	春・秋	必修	学士論文			○	○	○	CPSPCL4J

I. 政策科学部の教育理念と人材育成目的

II. 教育課程の編成と履修概要

III. 学びの支援・援助制度について

IV. 希望者履修科目・学部横断プログラム

V. 大学院進学・資格取得

付録

※科目ナンバリングルール

例) 科目ナンバー「CPSPLC1J」の場合

C	PS	PLC	1	J
学部/大学院	学部・研究科	科目区分	配当回生	使用言語
①	②	③	④	⑤

①学部科目か大学院科目かを表しています。C：学部科目、G：大学院科目

②どの学部の開講科目かを表しています。PS：政策科学部開講科目

③科目区分を表しています。(EPS科目は語尾にEを記載)

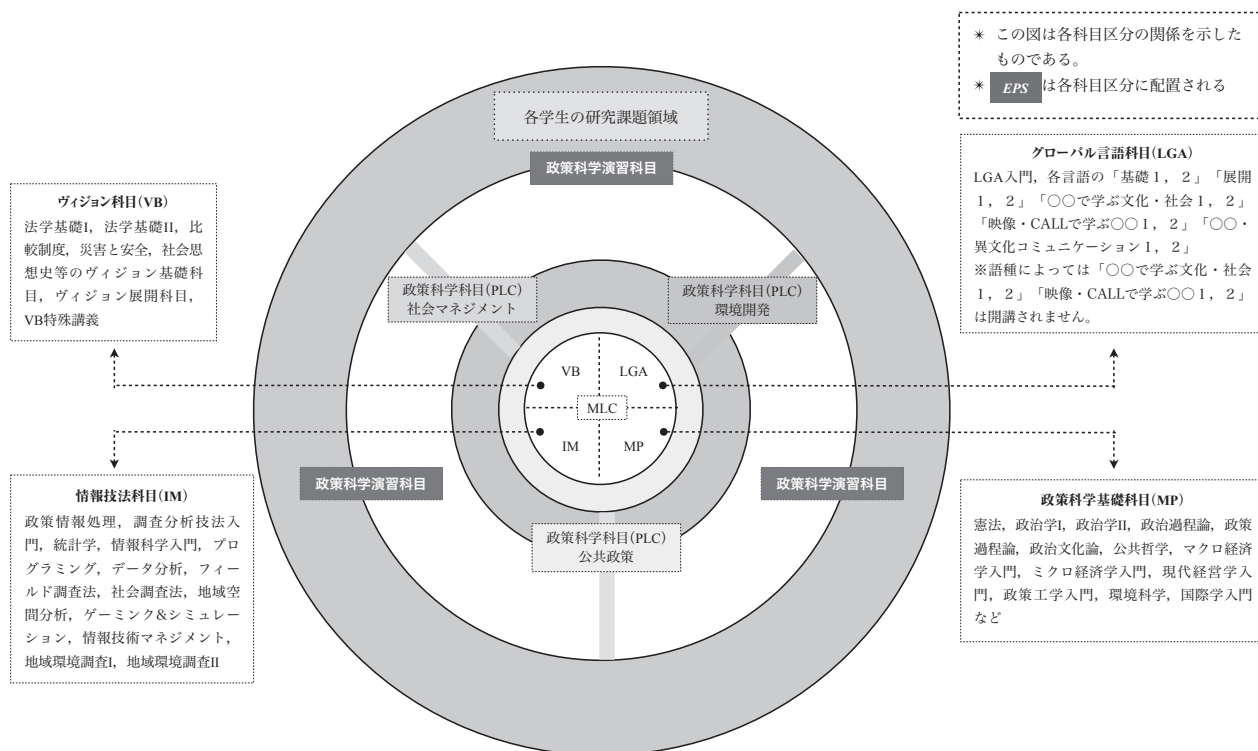
④配当回生を表しています。

⑤授業で使用する言語を表しています。

J	日本語開講
E	英語開講
O	英語以外の外国語開講
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

3.4 履修イメージ

政策科学部のカリキュラム：履修イメージ



3.5 科目概要

Vision-Broadening 科目 (VB科目)

〈ヴィジョン基礎科目〉

法学基礎Ⅰ

本講義では、できるだけ具体的に今日の事例を取り上げながら憲法をはじめとする法的な問題を概説する。外国人の参政権問題や、教育現場の人権問題など現代日本の社会が抱えている問題を、憲法・民法・刑法などの法体系の違いやそれぞれの原理・解釈の特徴、法的な解決とは、などについて考える。

法学基礎Ⅱ

民法を、市民社会の基本法として、日本の法体系の中での憲法・行政法・刑法などとの関係での位置づけを明らかにし、民法の基本的な考え方、基本的諸原理・構造を説明し、併せて民法総則の分野、特に法律行為論等について論議する。

災害と安全

災害が人間生活、国土にどのような影響を及ぼすかを事例（自然災害・都市災害など）を通じて論じ、災害の発生原因、メカニズム、被害構造、補償制度について自然科学的・社会的に、総合的に理解させる。その際、地域レベル、政府レベル、地球レベルでの防災システムのあり方を、国連・政府・自治体・民間の活動を通じて学ばせる。

比較制度

本講義は、「国際比較」の分析枠組によって、世界各国の政治・行政制度の理解を深め、日本の制度的特徴を確認する。具体的には、立憲君主制と共和制、大統領制と議院内閣制、議院内閣制の運用の違い、一院制と二院制の議会制度、小選挙区制と比例代表制など選挙制度、官僚制度などの比較を行う。また、欧米民主主義国家のみならず、アジアなど成長著しい新興国の政治・行政制度にも焦点を当てる。

社会思想史

公共政策の多くは正及び負の財の配分パターンの変更に関連する。財の配分パターンの「正しさ」は哲学的正義論の主要問題の一つであると同時に統治行為の正当化根拠でもある。この科目においては契約説、功利主義を中心とした近代社会哲学の発展を軸に、現代正義論の展開をも視野にいれながら、近現代の社会哲学における配分準則と統治行為の正当化論を概説し、規範的公共政策論の基礎を養う。

〈ヴィジョン展開科目〉

「ヴィジョン展開科目」区分で開講している科目の概要は、「立命館大学 教養教育センターHP」にて確認することができます。

Information and Methods 科目 (IM科目)

政策情報処理

本講義は、政策科学部で学修・研究を進めるにあたって必要となる、資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく方法を、コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識や技術とともに、学ぶ演習（実習）科目である。

調査分析技法入門

この講義では、政策や社会現象の分析に必要な基礎的な調査分析技法を紹介し、その特徴や調査分析プロセスを理解することを目的とする。特に社会調査や事例研究といった研究において必要となる調査分析のプロセスや調査分析技法の解説を行う。また、分析に必要な認識に関する問題なども取り上げながら「分析道具に対する理解」と「分析における認識問題」の双方を理解し、調査・分析の基礎的な方法とプロセスを習得する。

統計学

統計学とは、データを用いて自然及び社会現象の特徴について客観的に理解する学問である。この講義では、社会現象を定量的に把握、理解するために行われる社会調査において必要となる統計学の基礎知識を学ぶ。具体的には、記述統計、確率分布、標本から母集団の推計、仮説検定、相関分析、回帰分析などを学習する。

情報科学入門

本講義は、情報システムの設計、管理、運用に関する知識や技術を習得することを目的に、情報リテラシ／メディアとコミュニケーション、ソフトウェア／ハードウェア／ネットワーキング、数学モデルや統計的分析、最近のコンピュータモデルとシミュレーション、オブジェクト指向、認知科学と人工知能、宇宙開発などの世界の最先端技術、ロボット等について講義を行う。

フィールド調査法

本講義では、フィールドワークの主な調査方法（主に質的調査法）を具体的に紹介しながら、それらに関わる時代的な認識や倫理について解説していく。それにより、受講者に対し、多様なフィールドワークの手法とその歴史性の把握、それらが抱える認識論的な可能性および限界と調査倫理の問題への理解を促すことが本授業の主たる目的である。

プログラミング

本講義では、演習（実習）形式で、基本的なアルゴリズムを理解し基礎的なプログラミング能力の習得、そして、ユーザフォームを用いたインタラクティブ処理、マルチメディア表現に関する技能の習得を目的とした科目である。

データ分析

この講義では、官庁統計など現実の社会で収集・蓄積・流通しているデータについて基本的な知識を身につけ、データに隠れている特徴や特性などを発見し解釈を行い、新しい情報を創造し、これを知識へと高め、自分の知恵を豊富にするためのデータ分析方法について、パーソナルコンピュータを用いた演習（実習）形式で学習する。

地域空間分析

単に「地域」といっても、国レベルから街区レベルまでその大きさはさまざまであるが、色々な社会情報を地域空間の広がりの中で捉え、それぞれの地域を相対化する作業は、都市政策を考える上でとても重要である。ここではGISアプリケーション（GISとはGeographic Information Systemの略。地理情報システム。）等によって地域を分析する技法を習得し、空間的な把握能力の向上を目指す。

社会調査法

本講義では、社会調査における調査設計、実査、データの入力と整理、分析、結果報告の一連のプロセスのうち、主に調査データの量的なデータ分析について扱う。調査データの分析方法は様々であるが、ここでは単純集計、クロス集計から始め、重回帰分析、因子分析などの多変量解析まで扱う。また、データの分析と調査設計や結果報告は相互に関連し不可分であるため、分析技法を中心に社会調査の一連の流れも解説する。

情報技術マネジメント

本講義では、ネットワーク技術を中心とする情報通信技術に関する基礎知識とその応用事例・研究についての解説を行う。ソーシャルメディアなどのネットワークコミュニケーションを中心とする情報通信ネットワーク技術の構築や運用管理に関する知識や技術を実習（演習）も交えながら学ぶ。

ゲーミング&シミュレーション

複数脳のリンクにより、問題発見や問題解決にあたる未来への言語であるゲーミング・シミュレーションは、Learning by Doingによる意思決定や住民合意形成、学習や研修を通じた政策デザインのための基礎的手法である。政策スキルの涵養と政策形成の方法論を技法演習により習得する。

地域環境調査Ⅰ

調査票を用いたサーベイを行う。調査票を用いた調査のための準備や段取り、調査票の作成方法、調査票の配布・回収方法、データの分析、報告書の作成といった一連の社会調査のプロセスを習得する。調査テーマは、パッケージ履修科目である地域環境調査Ⅱで扱うテーマと連携したものとし、大学や若者の集住が地域コミュニティに対して与える影響を中心に扱う。

地域環境調査Ⅱ

調査票を用いたサーベイを行う。調査票を用いた調査のための準備や段取り、調査票の作成方法、調査票の配布・回収方法、データの分析、報告書の作成といった一連の社会調査のプロセスを習得する。調査テーマは、パッケージ履修科目である地域環境調査Ⅰで扱うテーマと連携したものとし、大学や若者の集住が地域コミュニティに対して与える影響を中心に扱う。

Meta-Policy 科目 (MP科目)

公共政策

政策科学の学術研究の全体像に鳥瞰的に接近し、個々のディシプリンの可能性と限界の把握をめざす基礎的科目である。思考と時間の可視化をはかるため、特に人物像とパーソナル・ヒストリーを対象とし、とりあげる人物の活躍時の時代背景の理解を通じて、教養と専門の両面から政策科学の理論を学ぶ学際的かつ複合的な内容である。

政治学 I

政治とは社会秩序の維持・安定やその変革を決定する人間の基本的活動の一つだが、それは時代を問わず複雑で容易に理解できるものではない。ことに複雑さを増した現代においてはこのことはまさに当てはまり、そのため政治現象がもつ意味を理解するには常に理論という導き手が必要とする。本科目では、政治学におけるこうした理論と現実の関係を、政治学の基本的概念や理論の学習を通して理解する。

政治学 II

古典的かつ代表的な政治思考の潮流について学ぶことを通じて、政治学分野の学習に必要な基礎知識を習得する。また、人間及び社会に関する様々な理念と解釈の集成としての政治思想を学ぶことで、公共政策における規範的な側面への視野を形成する。

憲法

本講義では、憲法が定められている意味、憲法が規定する様々な基本的人権の内容、国や地方自治など統治機構の概要について、具体例を理解しやすいように主要な憲法判例を通じて理解することを目的としている。

政治過程論

政治学の20世紀的展開としての政治過程の理論をまず理解させる。すなわち、政治を様々なアクターの相互作用と捉えることにより、持ち得た動態的な視座と、それゆえに国家や制度が軽視されたことによる理論的弱点を整理した上で、現代の政治過程論の理論的地平を論じる。これを前提として、様々な公的・私的アクターが織り成す現代日本の政治の政治過程を分析する。

政策過程論

政治過程論のより新しい展開を追う科目である。政治過程論は政策に注目し、これを独立変数とすることで政策過程の視座を得た。このことが、異なる政治過程を一定の構造の中に位置づける国家の意思の再発見につながる。正統学説の地位を得たダール・トルーマン流の多元的集団過程論と、それを支えた方法論としての行動論が軽視した国家や政治体制を再び正面に据えて論じることができるようになったのは、政治過程論が政策過程論へと歩を進めたからである。こうした理論展開を整理し、日本の政策過程についての事例紹介も行う。

公共哲学

共同体、公共性、公共空間にまつわる古典的な思想・理論の概要を学ぶ。これら思想・理論の変遷を歴史的に追跡しながら、今日的な政策課題が公と私の関係や区別とどのように関係しているのかを理解する視野を形成する。

政治文化論

政策過程は、さまざまな制度的要因、つまり組織構造や政治システムの仕組みに方向づけられるが、さらにもう一步踏み込んで考えてみると、組織や制度のあり方は、固有の文化的背景や市民意識のあり方によって規定されている。このように政策過程を背後から方向づける政治文化の内容に、経験的分析から迫る。

ミクロ経済学入門

現代社会においては様々な経済活動が行われており、個人は財を購入し、消費することにより、自らの満足度を高めようとする。企業は、財を生産し、販売することにより、利潤最大化を目指す。しかし、財には価格があり、消費者の予算も限られている。企業も財を生産するにあたって生産にかかる費用を考慮しなければならない。本講義では、こうした各経済主体が与えられた制約の中でいかなる行動をとり、それがどのようにして市場メカニズムに結びつくのかについて基本的な考え方を提示する。

現代経営学入門

現代の経営学及び企業経営実務ならびに経営コンサルティングに用いられるコンセプトを解説し、関連するトピックを紹介する、経営学の入門講座である。主に、企業の戦略立案、企業行動の理解のために必要な基本的なコンセプトの獲得を目指す。

マクロ経済学入門

本講義では、景気動向や経済成長を考察するうえで不可欠なマクロ経済学の基礎を概説する。具体的内容としては、GDPの定義、国民所得決定の理論、資産市場、為替市場、IS-LM分析と金融・財政政策、賃金と物価、景気循環と経済成長などを予定している。

政策工学入門

現代社会問題は政治、行政、経済、経営、短期と長期、ローカルとグローバルなど複雑に絡みあって総合的な性格をもっている。それを解決するための政策も多元的で、複雑なシステム（系）となり、「経験と勘」に頼る政策から「工学的手法」による政策へと求められている。「政策工学」(Policy Engineering)とは、政策の効率性、有効性、公平性、十分性を時間軸、空間軸、対策軸から分析、立案、実施、評価（検証）を行う学問（簡単に言えば、政策を工学的手法で最適化し、効用の最大化とコスト（リスク）の最小化を求める学問）とする。本授業は、基礎となる政策科学をベースにして、システム工学、社会工学、情報工学、政策評価論、数理計画論、最適化論など既存の学問分野を融合する新しい学際的学問「政策工学」への入門である。

環境科学

環境問題は多様化し、拡大する傾向にある。そして多くの課題は、それぞれが相互に原因となり結果となって絡み合っているため、これを総合的に解決していくことが何よりも必要である。本講義では、公害などのローカルな環境問題と地球温暖化といったグローバルな環境問題について、発生の原因、メカニズムと影響を科学的に分析し、それぞれの関連課題を系統的に説明するとともに、解決に向けた取組みの動向についても触れる。

国際学入門

冷戦構造の崩壊、超大国米国の相対的国力の低下、中国の台頭などに象徴される国際社会の変遷を学ぶことで、国際社会の現状を理解し、将来に向けての変化の方向性について考察する。そのなかで、平等な社会を目指した社会主義国が経済成長に乗り遅れて崩壊したように、政策意図とは逆の結果が生じうる事実や、各国の利害が激しくぶつかり合う現実を学ぶ。以上を踏まえて、経済大国から中堅国に移行しつつある日本が、こうした国際社会に対処していくために必要な戦略・政策について多面的に考察する。

サステナビリティ学入門

地球環境の変動による多種多様な問題が顕在化する現在、我々は生存基盤である地球システム、人間がつくりあげた社会システム、人間生存を規定する諸要素の総体である人間システムという、レベルの異なる3システムを包括的に再考することを迫られている。本科目では、サステナブルな地球・社会システム基盤における人間を取り巻くこれら3つのシステムとその結節点に主眼を置き、エネルギーや水といった自然資源、気候変動問題、サステナブルな組織運営などの話題を切り口としてサステナビリティ学へと誘う。

まちづくり入門

人口増加の時代を経て、日本は人口減少の時代を迎えている。とりわけ都市の諸問題を考える時、開発過程から持続過程への転換が進んでいることを理解する必要がある。都心回帰、郊外の高齢化問題、伝統的街区の景観保存など新しい時代の課題に対応するためには行政、住民、NPOなどの各主体を巻き込んでのまちづくりが重要となっている。ここでは各地の都市計画・まちづくりの歴史から開発手法の実際を学びつつ、持続過程におけるまちづくりの現代的意義を概説する。

Language for Global Actions 科目 (LGA科目)

1. LGA入門

10語種（German, French, Spanish, Italian, Russian, Chinese, Korean, Thai, Indonesian, Vietnamese）の基礎1，2および展開1，2の受講にあたって、一言語を選択するための材料を提供するための導入科目。イントロダクションで、英語以外の外国語を大学で学ぶ意義を考える。その後、一週間に一語種ごとに、母語話者担当者がそれぞれの言語がもつ言語的特徴や、その言語が使用されている国や地域の文化や歴史を、また日本語母語話者担当者が、次年度に受講が予定されている研究実践プロジェクトをはじめ、政策科学の学習と各語種の学習のかかわりを紹介する。この講義の受講を通じて、各語種についての理解を深め、研究実践フォーラムの応募時期にあわせて語種選択を行う。

2. 上記各語種「基礎1，2」「展開1，2」「〇〇で学ぶ文化・社会1，2」「映像・CALLで学ぶ〇〇1，2」「〇〇・異文化コミュニケーション1，2」

Vietnamese, Thai, Indonesian, Russian, Italianについては、「〇〇で学ぶ文化・社会1，2」「映像・CALLで学ぶ〇〇1，2」は開講されません。

2.1 French, German, Italian, Spanish, Indonesian, Vietnamese

これらの言語にはヨーロッパ起源のものとアジア起源のものがあるが、いずれも変則や発音の違いはあるがroman alphabetsを用いるものである。このため、当該文字の習得にそれほど時間はかからず、比較的速やかに音声、文法、語彙の習得に進む。もちろん、アルファベットといえども、英語の読み方や発音とは異なることが多いので、注意が必要である。

基礎 1

言語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の基礎を固めることを目的とする。原則として、日本語を第一言語とする教員が担当し、基本となる発音や文法を理解し、基礎的な語彙を身につけ、平明な文を読み書きできる能力を涵養する。また、「基礎 2」と連携し、上述の能力を、基礎的なコミュニケーションの場で実践できる応用力も涵養する。

基礎 2

言語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の基礎を固めることを目的とする。原則として、当該言語を第一言語とする教員が担当し、日常のコミュニケーションを念頭に置いた適切な発音や定型表現を、実践的な練習を通じて修得する。また「基礎 1」と連携し、基礎的なコミュニケーションを、的確な文法的知識や語彙力に基づき実践できる能力も涵養する。

展開 1

「基礎 1」および「基礎 2」で習得した言語運用能力の基礎をさらに固めることを目的とする。原則として、日本語を第一言語とする教員が担当し、より高度な文法を理解し、発展的な語彙を身につけ、やや抽象的な文を読み書きできる能力を涵養する。「展開 2」と連携し、上述の能力を、より日常に近いコミュニケーションの場で実践できる応用力も涵養する。

展開 2

「基礎 1」および「基礎 2」で習得した言語運用能力の基礎をさらに固めることを目的とする。原則として、当該言語を第一言語とする教員が担当し、より抽象的な日常のコミュニケーションを念頭に置いた少々高度な表現や言い回しを、実践的な練習を通じて修得する。また、「展開 1」と連携し、やや抽象的なコミュニケーションを、的確な文法的知識や語彙力に基づき実践できる能力も涵養する。

〇〇で学ぶ文化・社会 1

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に当該言語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語圏の文化・社会への理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。

〇〇で学ぶ文化・社会 2

「〇〇語で学ぶ文化・社会 1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に当該言語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語圏の文化・社会への理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。

映像・CALLで学ぶ〇〇 1

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して当該言語の多様性も学んでいく。

映像・CALLで学ぶ〇〇 2

「映像・CALLで学ぶ〇〇 1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して当該言語の多様性も学んでいく。

〇〇・異文化コミュニケーション 1 (French, German, Spanish)

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について当該言語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。

〇〇・異文化コミュニケーション 2 (French, German, Spanish)

「異文化コミュニケーション 1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について当該言語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。

〇〇・異文化コミュニケーション 1 (Vietnamese, Indonesian, Italian)

「基礎」および「展開」で習得した言語運用能力を統合し、より実践的な語学運用能力を高めることを目的とする。視聴覚資料など多様な教材を活用し、さらに発展的・的確な文法的知識や語彙力そして表現力を身につけるとともに、当該言語圏における社会や文化に関する知識をも身につけ、より実践的なコミュニケーション能力を涵養する。

〇〇・異文化コミュニケーション 2 (Vietnamese, Indonesian, Italian)

「異文化コミュニケーション1」で習得した言語運用能力を前提として、さらに実践的な語学運用能力に高めることを目的とする。視聴覚資料など多様な教材を活用し、さらに発展的・的確な文法的知識や語彙力そして表現力を身につけるとともに、当該言語圏における社会や文化に関する知識をも身につけ、より実践的なコミュニケーション能力を涵養する。

2.2 Chinese, Korean, Russian, Thai

これらの言語にはヨーロッパ起源のものとはアジア起源のものがあるが、いずれもroman alphabetsを用いない。中国語は漢字、コリア語はハングル、ロシア語はキリル文字、タイ語はタイ（シャム）文字を用いる。そのため、上記6語種とは異なり、初級の全ての科目でインテンシブに文字の習得を徹底する。中国語は漢字なので、その過程を早期に切り上げ、音声、文法、語彙の学習を進める。

基礎 1

言語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の基礎を固めることを目的とする。原則として、日本語を第一言語とする教員が担当し、基本となる発音や文法を理解し、基礎的な語彙を身につけ、平明な文を読み書きできる能力を涵養する。また、「基礎2」と連携し、上述の能力を、基礎的なコミュニケーションの場で実践できる応用力も涵養する。

基礎 2

言語運用能力（聞く・話す・読む・書く）の基礎を固めることを目的とする。原則として、当該言語を第一言語とする教員が担当し、日常のコミュニケーションを念頭に置いた適切な発音や定型表現を、実践的な練習を通じて修得する。また「基礎1」と連携し、基礎的なコミュニケーションを、的確な文法的知識や語彙力に基づき実践できる能力も涵養する。

展開 1

「基礎1」および「基礎2」で習得した言語運用能力の基礎をさらに固めることを目的とする。原則として、日本語を第一言語とする教員が担当し、より高度な文法を理解し、発展的な語彙を身につけ、やや抽象的な文を読み書きできる能力を涵養する。「展開2」と連携し、上述の能力を、より日常に近いコミュニケーションの場で実践できる応用力も涵養する。

展開 2

「基礎1」および「基礎2」で習得した言語運用能力の基礎をさらに固めることを目的とする。原則として、当該言語を第一言語とする教員が担当し、より抽象的な日常のコミュニケーションを念頭に置いた少々高度な表現や言い回しを、実践的な練習を通じて修得する。また、「展開1」と連携し、やや抽象的なコミュニケーションを、的確な文法的知識や語彙力に基づき実践できる能力も涵養する。

〇〇で学ぶ文化・社会 1

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に当該言語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語圏の文化・社会への理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。

〇〇で学ぶ文化・社会 2

「〇〇語で学ぶ文化・社会1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に当該言語圏の文化・社会に関わる文献を用いて、読解力、文法力と語彙力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語圏の文化・社会への理解を深め、両言語・文化の仲介者となることも目的とする。

映像・CALLで学ぶ〇〇 1

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して当該言語の多様性も学んでいく。

映像・CALLで学ぶ〇〇 2

「映像・CALLで学ぶ〇〇1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に視聴覚教材を活用した聴解力の向上を主要な目的とする。並行して、視聴覚教材として使用する、映画やテレビ番組、歌や朗読など、様々な教材への取り組みを通して当該言語の多様性も学んでいく。

〇〇・異文化コミュニケーション1 (Chinese, Korean)

「基礎」および「展開」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について当該言語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。

〇〇・異文化コミュニケーション2 (Chinese, Korean)

「異文化コミュニケーション1」で学んだことを前提として、さらに語学力を高める。特に社会文化的な事象について当該言語の表現力の向上を主要な目的とする。並行して、当該言語でのバーバル・ノンバーバルなコミュニケーションスタイルについても学ぶ。

〇〇・異文化コミュニケーション1 (Thai, Russian)

「基礎」および「展開」で習得した言語運用能力を統合し、より実践的な語学運用能力を高めることを目的とする。視聴覚資料など多様な教材を活用し、さらに発展的・的確な文法的知識や語彙力そして表現力を身につけるとともに、当該言語圏における社会や文化に関する知識をも身につけ、より実践的なコミュニケーション能力を涵養する。

〇〇・異文化コミュニケーション2 (Thai, Russian)

「異文化コミュニケーション1」で習得した言語運用能力を前提として、さらに実践的な語学運用能力に高めることを目的とする。視聴覚資料など多様な教材を活用し、さらに発展的・的確な文法的知識や語彙力そして表現力を身につけるとともに、当該言語圏における社会や文化に関する知識をも身につけ、より実践的なコミュニケーション能力を涵養する。

Policy-learning Courses 科目 (PLC科目)

〈公共政策〉

国際機構論

急速にグローバル化する現代国際社会において、国際機構が果たす役割を学ぶ。特に、国連ファミリーと呼ばれる諸機関の意思決定の仕組みと、これらの機関が直面する課題について解説する。また、国際機構と主権国家との関係、またNGOや企業との関係についても扱う。さらに、EUをはじめとする国際地域機関の発展についても論じる。

情報社会論

インターネットを筆頭に情報通信技術の急速な発展とその普及により、社会の情報化がますます進展している。また、情報化の進展によって人々の生活スタイルや価値観が変化している。本講義では、現代社会を情報という観点から捉え、情報通信技術の普及が及ぼす社会への影響やそれらに伴う知的所有権や情報モラルなどの在り方について考察する。

比較文化論

「文化」を映す素材はさまざまである。この講義では言語、教育、ジェンダー、民族などに焦点を当て、文化にまつわる言説が社会においてどのように構築され、変容してきたか、また文化がどのように移動し、翻訳され、定着してきたかを、歴史的・理論的に理解することを目標とする。

政策評価

本講義では、政策を様々な視点から評価するための基礎的な概念と分析の進め方を学ぶ。政策を評価する視角は多様であるが、その代表的なものは費用便益分析など、経済性に注目した評価である。だが、これだけでは政策評価としては十分ではない。公共政策は、経済性や効率だけでは評価できない側面もある。そこで、政治的側面、社会的側面、文化的側面などにも視野を広げ、どのように政策を評価しうるかを議論する。また、政策評価が政策プロセスにおいてどのように位置づけられるのかについても解説する。

日本政治史

幕末に欧米列強と本格的に接触してから、日本政治は内政と国際関係の両面においてどのように歩んできたかについて、特に近隣の東アジア諸国との関係を軸に検討する。そのさい、当時の政策形成の担い手たる政治家の政策構想と行動も探っていく。

民法Ⅰ (契約法)

契約法の領域を論議する。民法第3編「債権」の「債権各論」を中心に、法学基礎Ⅱで学んだ法律行為論との関係も明らかにしつつ、典型契約に限定されない現代社会における契約の仕組みと内容を、その成立と履行過程について説明する。

民法Ⅱ（金融法）

金融取引法の領域を中心に講義する。同時に、民法Ⅰで学んだ契約に基づいて発生する各種の債権の保全・回収に関わる法制度を学ぶ。具体的には、民法第2編「物権」中の「担保物権法」と第3編「債権」中の「債権総論」について概説する。

行政法Ⅰ

現代の政策諸課題を行政を通じて実現する際にとられる手法・手段とその法的特質を明らかにする。例えば、道路建設や都市計画などの実施過程で国民と関わる手段がとられるが（政策の立案、計画などの行政の手段ないし手法、さらに行政指導、行政計画、行政強制など）、その法的意味や特徴を説明する。

行政法Ⅱ

情報公開、建築や環境に関する紛争、等々行政に具体的に関わった場合、関係する国民・住民に何らかの被害が生じることが、マスコミでも頻繁に報道されている。このような行政活動によって生じる被害に対する救済の法体系が行政救済法である。裁判における救済・裁判手続きによらない救済方法について、具体例を挙げて説明する。

現代政治理論

政治過程を理論的にどのように捉えるかをめぐる一連の仮説を検討する。具体的には、多元主義モデル、権力エリート・モデル、階級政治モデル、政治システム論、新制度論などについて、その理論的系譜と概念構成、方法論的基礎などを比較検討する。こうしたマクロ・パラダイムとの関連で、デモクラシーや権力などの概念についても論じる。

行政学Ⅰ

現代日本政府論。主として憲法学が統治機構論として語る、文字の上に固定された政治のパターンとしての制度と、政治学が権力の在り様に注目して語る、繰り返される政治パターンとしての制度、機構、構造を内容とする。政治の手続き、もしくはゲームのルールは、そのこと自体を知ることが政策構想に不可欠であるのみならず、政策が作り出されていく場そのものを知るためにも重要である。

行政学Ⅱ

政策形成の一主体としての地方政府を論じる。地方自治の制度的前提を押さえつつも、より動的に政策過程の視点から、地方政府の持つ様々な政治的資源とその制約を中央・地方の関係の中で位置づけ、最も身近なところでなされる政策形成の実践を裏づけることを目指す。

政治意識論

本講義は、人々の意識に注目して、意識調査データを用いた経験主義的アプローチから、政治を分析することを目的とする。そのために政治意識の概念、観察方法、機能、構造を知ると共に、最近の 이슈 と人々の意識、政治的態度と投票行動についての具体的な分析と分析のための理論モデルを検討する。

地域政策論

グローバリズムの急速な展開に伴い国民国家の枠組みが揺らぎ、国家の境域の内外において人間の諸活動をめぐる地域圏の形成が進んでいる。そのなかで地域社会において求められる人間の安全保障のための様々な喫緊の政策について検討していく。地域統合をめぐる動き、都市農村関係をめぐる諸政策、多文化主義をめぐる動き、移民政策などが検討の対象となる。

債権法

約束不履行や不当な契約の勧誘などの契約に関わる紛争や交通事故・環境破壊・欠陥商品などの事件に起因する紛争について規律する民法上の一般原則について講義し、現行法の解説を行うほか、その立法政策上の問題点についても検討する。

グローバル・ガバナンス

グローバル化の進展に伴う国際社会の構造変化を学ぶ。開発援助、環境や人道問題、貿易ルールなどについて、国益と国際共通利益をどう調整することができるのか考えてもらう。

国際公共政策

国連をはじめとした国際機関が策定する政策はどのようにして形成され、実施されるのだろうか。またどのような問題がひそみ、限界があるのだろうか。本講義では、人権、福祉、環境、開発、経済等の問題領域ごとの国際公共政策について具体的な説明を行う。

国際政治経済論

従来、国際関係は安全保障問題における国家間の権力関係を中心に論じられてきた。しかし、グローバリゼーションの進展で、国際関係には国家という枠組みを超えた多国籍企業が重要なアクターとして登場し、資源エネルギー政策、地球温暖化など環境問題、自由貿易と地域主義の関係、国際金融政策など、さまざまな新しい問題が生じた。本講義では、地政学・国際政治経済学の分析枠組を用いて、これらの問題の現状と課題を考察する。

日本と東南アジアの地方自治体

「地方の時代」といわれて数十年がたつ日本と、民主化後に急速に分権化が進んだ東南アジア諸国。本講義は、日本と東南アジアなどの地方自治体を事例とし、地域経済、自治体経営・行政、防災、環境、都市問題、自治体外交など、自治体の政策課題についてグループに分かれて学生による報告をプロジェクト・ベースで行う科目である。なお各自治体から職員をゲストとして招いて自治体の課題についての講義を行う。

〈社会マネジメント〉

ビジネスプラン

新規事業立案の際に考慮しなければならない主要課題、検討項目を理解する。主に新規事業のコンセプト立案に対して、論理的思考、批判的思考、多角的視点からのアプローチを行い、経営学を中心とした幅のある学際的複合的な内容となる。

戦略分析

企業の経営戦略や企業行動の分析方法、その分析に関連する経営理論を学ぶ。財務分析にも言及するが詳しくは財務分析論に譲る。ここではSWOT分析（企業の強み、弱み、機会、脅威）分析の習得を中心とし、関連して経営戦略の定義、分類なども採りあげる。

財務分析

企業の開示する財務諸表の分析方法を学ぶ。企業の戦略を評価するために必要な手法であると共に、戦略立案・実行のプロセスにも有効な手法である。財務諸表分析を通じて、財務諸表が読めるようになることを目指す。

戦略経営論

企業が成長していくためには、環境の変化に適合し、あるいは環境変化を先取りするかたちで、企業のあり方を変えていく必要がある。この企業に一定の方向性や指針を提供するものが企業戦略である。本講義では、企業組織を中心に戦略をどのようにマネジメントしていくのかを学んでいく。

企業組織論

企業組織論は民間企業を中心に今日の経営問題を扱う学問である。とりわけ、ここでは「企業がいかにして企業目的を達成することができるのか」を問題意識としながら、そうした「How」の問題を考察するための基礎として、企業組織論研究において現在主流となっている経済学的なアプローチやこれまで同分野で確立されてきた「原理・原則」を中心に学習していく。

マーケティング政策論

企業が自社の存続や発展を目的として市場創出や取引の活性化・円滑化を図る行動をマーケティングとよぶが、その成果は企業の意図と直接には無関係に常に社会的意義と影響とを伴う。本講義ではマーケティングの基礎的な理論と共に、政府の規制・助成等がマーケティングの社会的成果に与える作用について学ぶ。

消費者行動論

投票行動や配偶者選択行動など、消費者行動論には政策科学関連分野における研究アプローチとして幅広い応用領域が見出されている。本講義では購買意思決定過程を中心に消費者行動論の基礎を学ぶと共に、実習を通じて消費者行動研究に用いられる計量的分析手法を学んでゆく。

非営利組織論

民間組織でかつ営利を追求しない組織、つまり非営利組織が、今日公共的な分野における政策形成・執行の重要な担い手となっている。本科目は、このような非営利組織についてその構成や規模、社会的役割、とくに教育・医療・福祉分野における位置と役割、そのマネジメント、日米欧比較などを論じる。

社会的企業論

社会問題を解決するミッションを持った事業体である「社会的企業」が近年注目されている。ホームレスのための画期的な職業訓練や、途上国の貧困地域の自立に向けた小規模融資（マイクロクレジット）などが典型的である。その多くはNPOの組織形態をとるが、営利企業形態をとるものを含める場合もあり、非常に幅広い概念である。本講義ではこうした社会的企業の起業と経営について、ケーススタディとワークショップにより、実践的な理解を目指す。

組織ネットワーク論

近年のWeb技術やモバイル通信サービスの発展は、伝統的な意味での「組織」の境界を融解させ、人々や組織間の自律・分散・協調的なつながりとしての「ネットワーク」を生み出している。例えば、Web2.0とよばれるサービス群は、消費者の興味関心をベースとした、企業・消費者間、あるいは消費者間の新しいネットワークの基盤となっている。本講義では、特に、インターネット上で創発するさまざまなネットワークの事例を取り上げ、それらの概念、技術、および社会的な意義について考察する。

公共経済学

本講義では経済学の見地から政府の役割について検討を行う。公害などの外部不経済、公共財の供給、自然独占などの市場の失敗の是正のために、すなわち、民間の競争市場においては適切に供給されない財の最適供給のために、政府の果たす役割について経済学理論を示すとともに政策的な分析を行う。

パブリック・マネジメント論

主としてニュー・パブリック・マネジメント（NPM）に基づく行財政改革のあり方を検討する。NPMに基づく行財政改革は、業績測定、PFI（社会資本などの有形固定資産建設を伴う公共サービス提供に民間の力を活用）等の競争原理の適用、政府の業績測定、発生主義会計の導入を含む。本講義では、新制度経済学、公共選択論、民間経営等に影響を受けたNPMの理論と諸外国での取り組みおよび事例を分析し、日本における行財政改革の現状と課題について考察を行う。

地域経済論

地域とはコミュニティから世界レベルにまで及ぶ重層的なものであり、相互に影響を与えながらそれぞれの地域の経済や社会が成り立っている。また、地域は最も基本的な分析概念としては、都市と農村という類型に分けることが可能である。地域経済論では、この中でも農村や中小都市を中心にその経済の分析に焦点を当てるが、これらの地域経済においてきわめて大きい役割を担っている自治体の財政分析をも包含した包括的な検討を進めていく。

地方財政論

経済のグローバル化が進み、国民国家の機能や枠組みが再編される中で、地方自治体の役割が大きくなっている。そのため、地方分権はいまや世界的な潮流となっている。日本においても、国と地方の税財政改革が進められ、その内容をめぐって政府内のみならず学会や経済界においても様々な議論が繰り広げられている。地方財政は、地域の経済と社会を支える基盤であり、地方財政論では、このような視点から政府間財政関係ならびに自治体財政運営のあり方について検討を行う。

都市経済論

現代は都市の時代であり、国土のわずかの部分に多くの人口や企業が集積しているところに特徴がある。その原動力は市場経済であるが、その一方で都市には住宅問題や公害・環境問題といった都市問題が発生する。そのために、都市自治体は様々な都市政策を進めることによって、これらの社会困難を解決していかなければならない。都市経済論では、都市経済の動態を分析すると同時に、そこから生じる都市問題および都市政策をも包摂した総合的な検討を行っていく。

財政学

現代社会における財政の役割は極めて大きい。先進国の国民経済に占める財政の大きさは社会保障負担を入れると35～75%にも達する巨大な規模となっている。財政は、租税や公債によって資金を調達し、福祉や社会資本をはじめ生産および生活の基盤を支える様々な支出を担っている。また、その過程において、所得の不平等の是正や景気調整などの社会的な機能を果たしており、それらが総体として社会と経済を支えている。したがって、限度ない財政は公共政策の重要な柱であり、財政学ではこの財政の理論と制度の理解に基づいて、現実の政策を分析する。

経済政策

戦後から現在までに日本経済が直面した諸課題に対して経済政策が果たした役割について、その資源配分機能、経済安定化機能、所得再分配機能などを踏まえて解説する。そのうえで、今後益々重要性を増す課題である急速な高齢化や新興国の追い上げなどに対して日本が採るべき政策対応について考察する。

コミュニティ福祉論

変容する地域社会の中で多種多様な福祉政策課題が生起してきている。子育て教育、過疎化、多文化共生、防犯防災、障害者の自立生活、在宅医療介護、自殺防止などである。それらの解決のため行動する主体はもちろん地方政府もあるが、コミュニティの住民自身や、ボランティア団体、NPO、当事者団体など、様々な存在している。本講義ではこうした地域福祉政策の背景・課題・担い手などを包括的に議論する。

社会保障政策

現在日本は本格的な少子高齢社会に突入しているが、経済不況や財政危機の状況の中で、社会保障の持続可能性に大きな揺らぎがみられる。持続可能な社会保障制度を実現するためには、財政的側面だけではなく、ライフサイクルに対応したトータルな社会保障の再構築とそれを実現する具体的な政策の提案が不可欠である。このような視点から、本科目では、①社会保障の目的や理念、社会保障制度の基本的考え方、②個別社会保障制度の仕組みの理解、③個別社会保障制度の現状と課題及び政策、④トータルな社会保障制度の社会的基盤づくり、などを取り上げて論じる。

福祉経済論

本講義では、公的年金、介護保険、医療保険など主な公的保険制度について多様な側面から分析するとともに、社会保障と財政及び経済成長との相互連関などについても議論する。

雇用政策論 ※隔年開講

本講義では、社会保障との関わりにおける雇用政策を主に被雇用者の視点から検討する。戦後日本は日本型雇用システムのもとで高度経済成長を遂げてきたが、ここでは雇用という概念の形成、経済と労働市場の変化、雇用の安定・多様性・格差、労働時間、労働者の保護、雇用の創出、職業教育など雇用に関わる現状・仕組みや課題を分析し、社会を支える一員として「働くということ」や「働き方」を再考する。キャリア形成に必要な基礎知識および多角的・批判的思考を身につけることを目標とする。

社会福祉政策

本講義は、社会保障の主な対象者ではなく、社会福祉の受け手とされやすい女性・高齢者・障害者・子どもに視点をおいた政策のあり方の検討を目的とする。いわゆる社会的弱者と呼ばれる人々は雇用、労働、教育、貧困、人権、QOLにおいてどのような現状に直面しているのかを明らかにしつつ、彼らのニーズを満たし、強制されない自立を支援してゆくにはどうしたらよいのかを社会構造的かつ当事者主体の視点から分析していく。

金融論

現代の経済現象を理解するうえで金融の知識は不可欠である。また、近年における金融のグローバル化や国際的な通貨・金融危機の頻発のなかで、金融政策、信用秩序維持政策、為替相場政策、及びこれらの政策における関係国間の協調・協力は重要性を増している。これらの問題を中心に据えて、国内金融と国際金融の仕組みについて、実務と理論の両面から考察する。

国際経済学

グローバル化の潮流の下、国境を超えた経済活動が拡大するなかで、経済システムやそのサブシステムである金融システムをはじめとした様々な制度は変化をとげている。また、個人、企業、政府などの経済主体の行動やそれが影響を及ぼすメカニズムにも変化がみられる。さらに政策当局の対応においても、貿易や金融の分野でもみられるように、グローバル、リージョナル、ナショナルの3つのレベルで考える必要性が高まっている。こうした問題意識の下、理論や実証分析の蓄積を踏まえ、日本、東アジア、先進国経済、世界経済について、これまでの歩み、現状、今後の課題について考察していきたい。

開発経済論

途上国の貧困問題を講義の主なテーマとする。貧困は単に日々十分な食事をすることができないという問題だけでなく、人間として生きる希望を奪う深刻な問題である。では、なぜ貧困が起こるのか、貧困が他の社会的・政治的問題とどのように関連しているのか、これをどのように解決するか、といった課題を主として経済学的視点から考えていく。

比較福祉社会論

本講義は、福祉社会の理念、発展、仕組みおよび多元性を国際比較の視点から追究することを目的にする。戦後日本においては日本型福祉社会が形成されたが、既に行き詰まっている。少子高齢化、生産人口の減少、家族の個人化、経済のグローバル化は先進諸国共通の課題であり、今やそれはアジア諸国にも及び、各国は福祉システムの再編を迫られている。ここでは比較という手法を用いることによって、福祉社会の持続可能性を構造的に検討する。

〈環境開発〉

減災政策

日本では1970年代の高度経済成長以降、防潮堤といったハード対策（物的施設など）によって災害を防ぐという狭義の「防災」政策が主流であり、実際に多くの命を守ることに貢献してきた。しかし、1980年代初頭より狭義の「防災」による災害抑止の限界が指摘されるようになり、ソフト対策（活動規則など）を含めた被害を最小限に抑える「減災」という概念に注目されるようになった。さらに現在の日本は少子高齢化などの社会的変化に直面しており、このように変化する社会に対応した減災政策が求められている。

本科目では、社会の変化や学術的知見と密接な関係にある災害対策の系譜を解説するとともに、災害被害を軽減するだけでなく、災害後に社会の機能をいち早く回復するための「レジリエンス」についても理論面と実務面の課題を結びつけて、行政ならびに地域コミュニティなどにおける減災政策促進における重要な論点と、現代社会が直面する課題を論じる。

住宅政策論

わが国の住宅政策は、当初は住宅不足の解消が主目標であったが、その後量から質への転換が政策目標とされ、今日では住宅市場全体を対象とした体系が模索されている。住宅政策の体系・諸断面を俯瞰した上で、今後の住宅政策のあり方について考える。

都市計画

都市計画は地方政府・地方公共団体（自治体）の将来の空間デザインにより、地域政策の根幹をなすものである。21世紀は都市の時代とよばれ、地球上の全人口の2/3が居住する都市および都市空間における機能・構造と形態をどう扱い、将来へ向けてどのように変容させてゆくかの基礎理論を解説することが本講義の目的である。なお本講義は、都市問題・都市学の解説の場でもなく、住宅開発や都市開発の解説の場でもない。将来にわたる持続可能な都市の社会基盤（インフラストラクチャー）計画を中心とした解説に焦点をあてている。

都市の構造、都市問題の概要、都市の計測と分析の方法、都市の開発と管理、都市計画立案の手順と方法、等の理論と実例について論じ、簡単な演習を課す。

次に、大都市への人口集中と地方の過疎、地方都市の振興、都市居住者の生活環境評価、居住地選好、アメニティ等、都市計画の具体的課題の主要なものを対象としながら、課題そのものに関する考察、課題の構造的把握のための調査・分析、分析結果に基づく計画・政策デザイン等、一連の作業手順の設計と実践について論じる。

エコライフ政策

環境問題は身近なレベルから地球規模にまで拡大している。省資源・省エネルギー、リサイクル、水環境保全など環境に負荷を与えない生活の中で具体的な行動メニューを提示し、これらの行動の効果と困難さについて理解を深め、環境問題と生活習慣・行動の関連性について学ぶ。

都市マネジメント論

住みよく、楽しみや学びの機会が多いなど魅力ある都市をつくるため、行政や企業に依存するだけでなく、市民の参加やNPOとの協働などパートナーシップの仕組みを取り入れ、都市をトータルな視点で持続的に企画、管理する手法を探る。

都市景観論

景観訴訟や景観法の制定など、昨今の都市景観を巡る議論の集積や制度的充実は著しい。景観の概念、景観に関わる制度や計画の歴史、景観に関わる法・制度、景観分析手法、景観デザイン手法等について、事例に基づきながら解説する。

環境経済学

地球の自然環境をどのように守り、また人類共有の資源として利用していくかについて、経済学的視点から考えてみたい。本講では中心課題として次の3つのテーマを取り上げる。1.環境保護の政策手段 2.自然環境の価値をいかに評価するか 3.持続可能な開発（サステナブル・ディベロップメント）とは何か。

地域デザイン調査

都市環境デザインの基礎的表現手法を習得し、具体の都市環境を対象として、地域課題の調査・分析等の都市環境調査、デザインコンセプト立案、都市環境デザイン演習を行い、都市プランナー等に求められる創造力と想像力の資質を涵養する。

資源エネルギー論

資源エネルギーは我々が生活や社会活動を持続・発展するための基礎となるものであり、とりわけ資源小国といわれる我が国では、世界情勢を注視しつつ国内での安定供給を図ることが最重要政策課題の一つとなっている。本講義では、化石燃料・原子力や再生可能資源によるエネルギー供給とその利用、その他の金属などの資源の供給と利用、廃棄・リサイクル等に焦点を当て、世界および我が国における最近の情勢と政策について解説する。

環境経営論

環境に配慮した企業経営システムのあり方について理論的、実践的な理解を深める。地球的規模の環境問題が企業経営に及ぼした影響とその対応の実態を踏まえ、環境配慮経営モデル、企業における環境管理手法、新しい環境産業ネットワークについて、その理論的根拠を探りながら、今後のあり方を考察する。

環境社会学

廃棄物処理場、道路、ゴルフ場の建設など、地域の活性化・利用・保全をめぐる、さまざまな紛争やコンフリクトが生じる。この紛争と対立の発生・展開はどのように説明できるのか、実践的・理論的に学ぶ。また、これを解決するにはどのような手法があるか解説していく。

コミュニティ防災論

行政機関の防災である「公助」、自分の命は自分で守るという「自助」に加えて、自分の地域は自分たちで守るという「共助」が重要視されている。阪神・淡路大震災や東日本大震災などの特に大規模な激甚災害直後は行政や他地域からの支援は期待できない。自分の命は自分で、自分の地域は自分たちで守りぬくため、被災前対策としてのコミュニティ防災が重要であることは明らかであるものの、現場では遅々として対策が進んでいない事例が多い。

本科目では、コミュニティ防災を促進するための課題や、取り組みの実例に基づいた心理学・社会学などの既存研究の知見を解説する。さらに、コミュニティ防災の意思決定主体である参加住民の意思決定を促進するためのリスク・マネジメント手法など、防災まちづくり専門家のコミュニティ防災への関わりとその課題についても論じる。また、復興は次にくる災害への事前対策という点で防災と連続性があることから、東日本大震災後において積極的に取り入れられた復興期におけるまちづくりへの専門家の関与における課題についても論じる。

戦略的環境アセスメント

環境行政の中で重要な役割を有する環境アセスメントの成立の背景、枠組み、技法を理解させる。さらに、世界における環境アセスメントの実施状況を把握するとともに、日本における環境アセスメントの実施例を検討・評価し、有効性と限界性を学ばせる。

交通計画

空間スケールごとに旅客と物流、通勤・通学と旅行、道路網と自動車交通、鉄道、自転車、徒歩などの陸上交通、海上交通、航空交通、機械動線による都市内交通・都市間交通、地域内における回遊行動や歩行空間、賑わいと観光行動などのヒトとモノの移動・滞留・経路（通路）にかかわる未来のある時点の需要に対して、工学・経済学・計画理論・公共選択の学理に基づき、需要推計に基づく交通に関する計画を策定するための学理体系について概説する。

本講義では、国土交通計画・広域交通計画、農村における交通計画、物流などについてではなく、主に都市交通のうち旅客に焦点をあてて、需要推計の基礎となる交通センサスやパーソントリップ調査、発生集中交通量・分布交通量・分担交通量・配分交通量らの一連のデータの集計と推計による四段階推定法をまず学ぶ。その後、経済学的アプローチ、特に部分的モデル・動的モデルによる異なるアプローチから構成された非集計モデル型の推計に基づく計画、住民運動により交通計画の変更や公害訴訟による被害弁済などの社会科学・政策科学による公共選択の事例、買い物客誘導による賑わいの創出や市街地活性化や観光行動・歴史都市における世界遺産への過度の集中負荷を緩和するための誘導による回遊行動の計画、コミュニティの避難経路や避難行動計画、コンパクトシティ政策における都市交通計画の役割や歩く街政策・自転車による都市再整備などについての事例なども紹介する。

政策分析

本講では費用便益分析の基本的概念と分析の進め方などを学ぶ。費用便益分析は、公共事業、援助プロジェクトなどの投資効率を分析するもので、国際機関などではプロジェクト採択判定の最も重要なステップをなしている。本講では、まずプロジェクト評価の基本的手順の流れを世界銀行などの例で概観し、続いて可能な限り事例を取り上げて費用便益分析の考え方と評価手順、関連する諸問題について解説していきたい。

国際環境政策

国連人間環境会議にかかわる国際的な社会情勢に対する理解を基本として、国際的な環境政策の成果、さらに今日に至る国際的な環境政策の潮流を明らかにする。具体的に、大気汚染・海洋汚染などの越境汚染に対する国際的な取り組みの経過と現状、国際的な環境保全に対する国連、国際機関、政府、NGOなどの政策の系譜と現段階の到達点、南北間・世代間の利害調整の原理と方法について論じる。

計画理論

社会科学は記述された情報、すなわち過去から現在を対象とするが、計画学は現在から未来を紡ぐ学理である。政策科学とは、将来の組織や社会を行動予定の情報パッケージに従って、よりましに目標に達成するための、プランニングという政策を組み立てるための学理である。

特に未来における問題の解決、将来を改変する情報を複数脳で処理し得る人類の最大最強の能力を獲得した進化の観点、

連携した複数脳が処理する情報の側面、脳を有する有機炭素生命の生存環境と我々の宇宙における人類の存在の観点を含め、人類が抱えている課題は、過去・現在のみならず未来へ向けて相互に影響し合っている。

本講義は政策科学の基礎科目として不可欠な公的計画の基礎理論を解説すると同時に、プランニング演習の入門講座としての役割もあわせ持つ。なお、日本で計画理論を開講している大学は少なく、関西では政策科学部のみである。

コミュニティ政策論

コミュニティは、かつての地縁に基づいた地域コミュニティから、同好会といった趣味などの価値が共通する仲間との価値縁に基づくコミュニティ、SNS（Social Networking Service）における仮想コミュニティなど多様な概念へと拡張してきた。しかし一方で、自然・人為的災害や高齢社会などにより、特に都市において希薄化している住民間の地縁に基づいた社会関係資本（社会的絆など）のセーフティネットとしての重要性が注目されている。

本科目では、コミュニティの多様性について解説するとともに、福祉や災害などの各課題に横断する問題であるコミュニティが直面する社会関係資本の希薄化、それに対する学術的ならびに実務的取り組みを論じる。さらに、大学生として大学周辺地域コミュニティなどへの関与における特長や課題についても事例に基づいて論じる。

都市・環境法

都市環境法制の内容を基礎にしつつ、環境法の入門にもなるように不法行為法の比重を増した内容である。法の歴史と基礎理論の説明も重視する。

システム科学

社会というものは、自然環境他の外的な要因および人間の知的活動の集合、すなわち、様々な意思決定行動とそれらすべての相互関係によって表出された現象として捉えることができる。本講義では、この大規模で複雑なシステム（系）としての社会を関係構造的に理解するために、システム科学的な視点からのアプローチを紹介していく。最初は、機械のような比較的単純なシステムの利用のため考えられた従来の工学的考え方から始め、社会を構成する要素である人間、人間と人間の相互関係、その結果としての組織、あるいは機械と人間の混在するシステムなどを、システム工学、認知科学、人工知能、人間工学、ロボティクス、ファジィ理論といったようなコンピュータサイエンスの先端的成果から構造モデルの説明を試みる。また、この構造モデルを理解する上でゲーミング&シミュレーションは効果的なアプローチ方法であり、実践するとともにその設計を試みる。さらに最終的には、システムに対する構造モデル構築の方法を考える。

〈共通〉

政策科学入門

1回生が政策科学の基礎理念と具体的な政策課題に触れることを目的とする。政策科学部専任教員によるリレー講義により、政策科学の基礎理論とともに具体的な現代の政策課題を提示し、解説する。これは、政策科学部教員がどのような分野を専門とし、そして政策科学との関わりでいかなるテーマで調査研究を行っているかについて1回生に理解させることも目的としている。1回生にとって、これからの4年間の政策科学部での学習の動機付けとなるような内容とする。

東南アジアの宗教

東南アジアは帝国主義の侵略を受けるまでは、アニミズム等を信仰する自然崇拝の地域であった。しかし、南伝上座部仏教の伝播、イスラームの布教、カトリックおよびプロテスタントの帝国主義を伴った布教と常に外部世界の圧力にさらされた地域であった。本講義ではその多様な宗教を「自律的なもの」として捉えるのか、「他律的なもの」として捉えるのかを軸に、イスラームと南伝上座部仏教の現状を多発する宗教紛争を基に批判的に考察する。

クリティカル・シンキング

英語圏の大学で行われている、分類し、分析し、そして筋道だてながら批判するリベラルアーツ式の思考方法を学ぶことによって、留学先でも必要とされる建設的な議論の方法を学ぶ。

English for Policy Science 科目 (EPS科目)

科目概要の後の [W (B2.2)], [S (B2.2)], [R (B2.2)] などの記号は、後掲の「CEFRに基づくCan-Do-list」と連動しています。(W: Writing、S: Speaking、R: Reading、L: Listening)

Type A: Input=English, Activities=English, Output=English

授業は全て英語で行われる。日本人学生のうち、特に留学を希望している学生には「擬似留学体験」の機会を提供する科目。CRPS専攻科目を履修する場合もこのカテゴリーになる。

Contemporary Issues in Policy Science I (EPS-A) 〈現代の政策課題 I〉

Foster an understanding of contemporary local and global issues; basic understanding of political theories and philosophies; pros and cons of issues; how to support arguments; build logical arguments; discussion; debate.

[S (B1-B2.1)], [L (B1-B2.1)]

Academic Workshop (EPS-A) 〈アカデミックワークショップ〉

Learn key vocabulary and theoretical concepts related to policy science. Learn the basics of academic paper writing and research in the social sciences. Learn how to discuss and present ideas in both written and spoken medium.

[W (B1-B2.1)], [S (B1-B2.1)]

Contemporary Issues in Policy Science II (EPS-A) 〈現代の政策課題 II〉

Build on fostering an understanding of contemporary local and global issues; fundamental understanding of main political theories and philosophies; how to analyze in regard to political theory and philosophy. How to support an argument; analyze information; build logical arguments; discussion; debate.

[S (B2.1-B2.2)], [L (B2.1-B2.2)]

Research Workshop (EPS-A) 〈リサーチワークショップ〉

Learn the basics of research proposal and paper writing. Introduction to types of research methodologies; do pilot study with either survey or interviews. How to work together effectively in research groups. Write group research report and give presentations.

[W (B2.1)], [S (B2.1)]

Policy Studies I (EPS-A) 〈政策研究 I〉

Introductory or survey course to policy science related topics. Understanding and ability to apply political theories and philosophies. Students will research, discuss, debate and present on subjects related to policy science; write academic research papers of approximately 1000 words.

[S (B2.1)], [L (B2.1)], [W (B2.1)]

Field Research Workshop (EPS-A) 〈フィールド調査ワークショップ〉

Designed to enable students to be more independent and capable for doing field research abroad. Knowledge building and presentation in chosen research area. Build ability and confidence in conducting interviews; actively listening to presentations; asking preliminary and follow up questions; giving answers/opinions.

[W (B2.1-B2.2)], [S (B2.1-B2.2)]

Policy Studies II (EPS-A) 〈政策研究 II〉

More in depth course related to policy science related discipline. Understanding and ability to apply political theories and philosophies. Students will research, discuss, debate and present on subjects related to policy science; write academic research papers of approximately 1200 words.

[S (B2.1-B2.2)], [L (B2.1-B2.2)], [W (B2.1-B2.2)]

Policy Studies III (EPS-A) 〈政策研究 III〉

Course focusing on more advanced theory and philosophical thought. Understanding and ability to apply political theories and philosophies. Students will research, discuss, debate and present on subjects related to policy science. Write academic research papers of approximately 1500 words. This course is open to both PS and CRPS students.

[S (B2.2-C1)], [L (B2.2-C1)], [W (B2.2-C1)]

Type B: Input=English, Activities=Japanese/English, Output=Japanese/English

社会科学の入門レベルの学習から専門的な学術論文、政府の公文書、報道記事など、学生の受講目的に応じた科目・クラスを開講する。専門用語・概念を翻訳語を通じてのみならず、言語や語源にまで視野を広げて学ぶカテゴリー。

Introduction to Social Sciences I (EPS-B) 〈社会科学入門講読Ⅰ〉

政策科学の専門的な研究のベースとなる社会科学の基礎的な知識を英語で学ぶ科目である。専門的な知識を学ぶことと並行して、アカデミック英語の基礎的な特徴や社会科学的な思考法の基礎を学ぶことを目標とする。

[R (B1-B2.1)], [L (B1)]

Introduction to Social Sciences II (EPS-B) 〈社会科学入門講読Ⅱ〉

Iと同様、政策科学の専門的な研究のベースとなる社会科学の基礎的な知識を英語で学ぶ科目である。専門的な知識を学ぶことと並行して、アカデミック英語の特徴や社会科学的な思考法を学ぶことを目標とする。Iよりやや発展した授業内容を想定する。

[R (B1-B2.1)], [L (B1)]

Area Studies Reading A~D (EPS-B) 〈地域文献研究〉

政策実践プロジェクト科目での海外調査の対象となる地域に関して、それぞれの地域ごとにクラスを編成する。授業では対象地域に関する英語文献を読み、当該地域の政治、社会、歴史、文化などに関する理解を深める。

[R (B1-B2.2)]

Policy Science Reading I: Public Policy (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅰ〉

専門的な英語文献の講読を通じ、公共政策領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B1-B2.2)]

Policy Science Reading II: Social Management (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅱ〉

専門的な英語文献の講読を通じ、社会マネジメント領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B1-B2.2)]

Policy Science Reading III: Environment and Development (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅲ〉

専門的な英語文献の講読を通じ、環境開発領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B2.1-C1)]

Policy Science Reading IV: Public Policy (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅳ〉

Iよりさらに専門的な英語文献の講読を通じ、公共政策領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B2.1-C1)]

Policy Science Reading V: Social Management (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅴ〉

IIよりさらに専門的な英語文献の講読を通じ、社会マネジメント領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B2.1-C1)]

Policy Science Reading VI: Environment and Development (EPS-B) 〈英語文献研究Ⅵ〉

IIIよりさらに専門的な英語文献の講読を通じ、環境開発領域に関する知識を深める。また、論文や資料などの専門的な英語論文の精読を通じて、その背後にある論理的な思考法や社会科学的な思考法を学ぶ。

[R (B2.1-C1)]

Type C: Input=Japanese/English, Activities=Japanese/English, Output=English

“Learn to Contribute” の理念の下で、外国人にとってわかりにくい日本の文化や社会を英語で説明するDecoding Japanを原型とするプロジェクト型の英語学習カテゴリー。(英語版のProject-Based Learning)。学習の成果物として英語で利用可能なマテリアルの作成を義務づける。主に英語で「書く」ことに焦点を据えるが、プロジェクトの内容によっては英語によるインタビュー等の活動が必須とされる。成果物の社会的利用を目標とする。

EPS Project I (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅰ〉

上述の“Learn to Contribute” の理念をもっともよく表すプロジェクト。プロジェクトの中心をなすのはDecoding Japanであり、例としては以下のものが挙げられるが、他にも様々なトピックを展開できる。このプロジェクトでは成果の公開を目標とする。

“My Sweet Hometown” 出身地について調査し、英語化されていない情報を英語で紹介する。

“Decoding Osaka” 特に新キャンパス内や周辺の有用な情報を留学生、観光客、在日外国人のために英語化する。

“Unrolling History” 日本の地方自治体の歴史、企業の社史、あるいは立命館大学政策科学部の歴史などを調査し、英語化する。

[L (B1)], [W (B1)], [S (B1)], [R (B2.1)]

EPS Project II (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅱ〉

上記EPS Project I よりも増強された政策科学の知識および英語力を用いて、より完成度の高い成果を求める。

[L (B1-B2.1)], [W (B1-B2.1)], [S (B2.1)], [R (B2.1)]

EPS Project III (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅲ〉

プロジェクト入門の年度末研究成果報告書に添付する英語アブストラクト執筆のための技法を学ぶ。資料の調査（方法）と読解、モデルサンプルの検討、専門用語の検討、などを通して、各自が自分の研究について英語でタイトルとアブストラクトを執筆する。また可能な場合は、成果報告書全体を英語で執筆するための指導を行う。

[W (B2.1)], [R (B2.1)]

EPS Project IV (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅳ〉

上記EPS Project II よりも増強された政策科学の知識および英語力を用いて、さらに完成度の高い成果を求める。

[L (B2.1-B2.2)], [W (B2.1-B2.2)], [S (B2.1-B2.2)], [R (B2.1-B2.2)]

EPS Project V (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅴ〉

政策実践研究プロジェクト・フォロワーの年度末研究成果報告書に添付する英語アブストラクト執筆のための技法を学ぶ。資料の調査（方法）と読解、モデルサンプルの検討、専門用語の検討、などを通して、各自が自分の研究について英語でタイトルとアブストラクトを執筆する。また可能な場合は、成果報告書全体を英語で執筆するための指導を行う。

[W (B2.1-B2.2)], [R (B2.1-B2.2)]

EPS Project VI (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅵ〉

上記EPS Project IV よりも増強された政策科学の知識および英語力を用いて、いっそう完成度の高い成果を求める。

[L (B2.2)], [W (B2.2)], [S (B2.2)], [R (B2.2)]

EPS Project VII (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅶ〉

政策構想演習Ⅱの年度末研究成果報告書に添付する英語アブストラクト執筆のための技法を学ぶ。資料の調査（方法）と読解、モデルサンプルの検討、専門用語の検討、などを通して、各自が自分の研究について英語でタイトルとアブストラクトを執筆する。また可能な場合は、成果報告書全体を英語で執筆するための指導を行う。

[W (B2.2)], [R (B2.2)]

EPS Project VIII (EPS-C) 〈政策英語プロジェクト演習Ⅷ〉

学士論文に添付する英語アブストラクト執筆のための技法を学ぶ。資料の調査（方法）と読解、モデルサンプルの検討、専門用語の検討、などを通して、各自が自分の研究について英語でタイトルとアブストラクトを執筆する。また可能な場合は、成果報告書全体を英語で執筆するための指導を行う。

[W (B2.2-C1)], [R (B2.2-C1)]

日本語科目

日本語Ⅶ（文章表現a）

この科目では、大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。レポート作成に必要な文章構成を考え、適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。

日本語Ⅶ（文章表現b）

この科目では、大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。論文作成に必要な文章構成を考え、適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。

日本語Ⅶ（読解a）

この科目では、様々な文章の読みを通して読解のスキルを磨き、文章の内容をより速くより正確に掴めるようにするとともに、その背景にある日本文化・社会に対する理解を深める。さらに、段落の要点理解から、文章全体の大意を把握し要約する力を養う。

日本語Ⅶ（読解b）

この科目では、評論、論説文、小説など複雑な構造の長文を速読して、論旨を読み取り要約し、自分の意見を構築することを目指す。また、異なる視点から書かれた文章を読み比べるなど、文章をクリティカルに読む姿勢を身につける。

日本語Ⅶ（聴解口頭a）

この科目では、大学の授業に参加するために必要な聴解力・口頭表現力を養う。ノートのとり方、講義の聞き方の練習を中心とし、自分の意見を正確に伝える力を伸ばす。

日本語Ⅶ（聴解口頭b）

この科目では、大学の講義に参加するために必要な聴解力・口頭表現能力を養う。自分の関心のあるテーマについて情報を収集し、論拠を提示しながら論理的に話す力を伸ばす。

日本語Ⅷ（アカデミック日本語a）

この科目では、日本語Ⅶで身につけた力をもとに、ゼミなどの小集団授業で必要な高度な読解力、文章表現力、聴解力、口頭表現力を総合的にのばす。

日本語Ⅷ（アカデミック日本語b）

この科目では、アカデミック日本語aで学んだ知識を深め、卒業論文の執筆や大学院進学を視野に入れた総合的日本語力をのばす。

日本語Ⅷ（キャリア日本語a）

この科目では、日本の社会や慣習を理解し、ビジネス場面における適切な表現、語彙を学ぶ。社会人としての基本的な敬語や待遇表現を身につけ、円滑なコミュニケーションができるようにする。

日本語Ⅷ（キャリア日本語b）

この科目では、実際のビジネス場面（電話、訪問、商談など）に即したコミュニケーションの方法、ビジネス文書やメール文の実務的な表現や書式を学ぶ。プレゼンテーションの練習を行う。

Ⅲ. 学びの支援・援助制度について

1. ライティング・ヘルプデスク
2. 学生への援助制度について
3. 政策科学会
4. シラバス
5. 団体受験について
6. Beyond Borders Plaza (BBP) について

1. ライティング・ヘルプデスク

政策科学部では、政策科学演習科目（基礎演習・プロジェクト入門、研究実践フォーラムⅠ・Ⅱ、政策構想演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学士論文）での学習成果を評価する際の提出物の多くに外国語によるタイトルとアブストラクト（要旨）の添付を求めています。みなさんはEPS科目においても外国語運用能力向上のために学習しますが、その学習成果を小集団演習科目の学習にも活かしていこうということが政策科学部の基本的な考え方です。

小集団演習科目で提出する論文やレポートは、政策科学の専門的な用語が使われたり、学術的なスタイルで書かれていたりするので、最初はとても苦勞するかもしれません。そのため政策科学部では、みなさんが円滑に政策科学の学習課題や学習成果を外国語で適切に表現できるように、「ライティング・ヘルプデスク」を開設しています。これとあわせて、英語によるタイトルのつけ方やアブストラクト（要旨）の書き方についてのマニュアルも用意しています。これらのサポートツールを積極的に活用して、外国語を自在に使えるスキルを磨いてください。詳細については、manaba+R「学修ツール」にある『外国語の学びと研究のために』や「英語アブストラクト執筆のヒントとワークシート」を参照してください。

2. 学生への援助制度について

政策科学部では、以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、様々な援助を行う制度です。自主ゼミとして認められるには、学びステーションに申請・登録する必要があります。詳細は、学びステーションに問い合わせてください。

（１）登録条件

- ① 5名以上であること。
 - ② 政策科学部生であること。
 - ③ セメスター終了後、活動報告書の提出を行うこと。
- ※登録については、継続する場合も含め、毎年度、春セメスター・秋セメスターごとに必要。

（２）自主ゼミへの援助

自主ゼミとして学部認められた場合は、活動に使用するための教室貸与や資料作成等のために専用の印刷用IDを配布します。

（３）登録方法

受付期限：春セメスターは4月、秋セメスターは9月にmanaba+Rで案内します。

受付場所：manaba+R

※所定の登録用紙に必要事項を記入の上、期限までに提出してください。

3. 政策科学会

立命館大学政策科学部に入学された学生のみなさんは「立命館大学政策科学会」の会員となります。政策科学会は、政策科学部の教育・研究の自主的・創造的な発展ならびに学部の充実・発展と広く各界との交流をめざすために組織されたものです。政策科学会は、政策科学部の教員・学部生、政策科学研究科の大学院生から構成され、教員・学部生・大学院生が一体となって運営しています。

学会の主要な事業としては、次の3つです。

- ①学会誌『政策科学』の発行
- ②研究会、講演会の開催
- ③研究補助、学生援助

また、政策科学部の学生によって構成される政策科学会学生委員会の主要な事業としては、次の2つがあります。

- ①『学生論集』の発行
- ②政策科学会の諸行事（園遊会など）の運営

このような学会活動を各会員の研究や学習に役立つものとするためには、何よりも構成員の積極的な参加が必要です。皆さんが学生会員として学会活動に積極的に参加されることを望みます。

4. シラバス

シラバスには、それぞれの科目の『授業の概要』『受講生の到達目標』『成績評価方法』等の内容を掲載しています。受講登録を行う前や授業を受ける前には、内容を確認してください。シラバスはmanaba+Rから確認してください。

5. 団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP[®]テストとTOEIC[®] L&R IPテストを団体受験として実施しています。

■TOEFL ITP[®]テスト

TOEFL[®]テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP[®]テストは、学校などの団体向けプログラムで、主にTOEFL[®]テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

■TOEIC[®] L&R IPテスト

TOEIC[®] L&Rテストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IPテストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC[®] L&Rテストの過去問題を中心に出版されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験はTOEFL ITP[®]テスト、TOEIC[®] L&R IP テスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程、試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ
(manaba+Rの「政策科学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

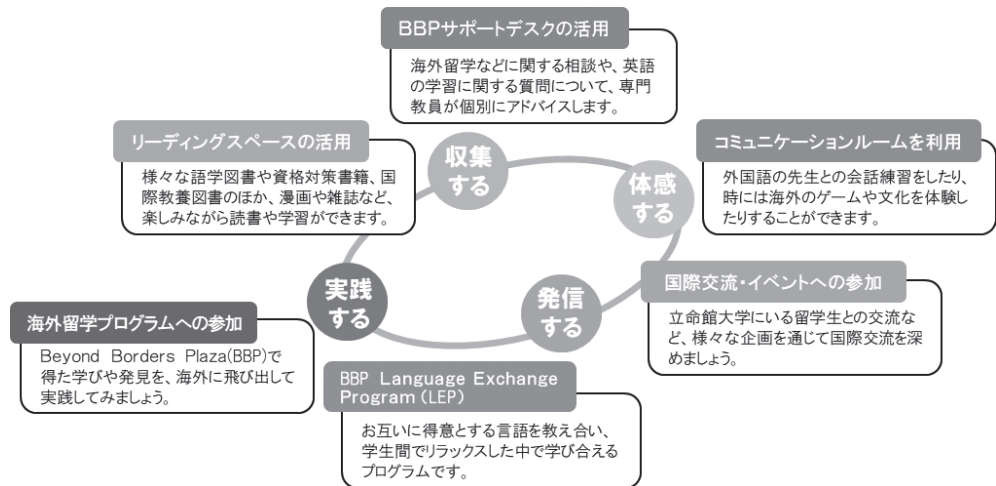
※TOEIC[®]、TOEFL[®] Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※TOEIC[®] L&Rテストの「L&R」はLISTENING AND READINGの短縮形です。

6. Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々なBorderを超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBPでは、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEBサイト】

(manaba+Rの「政策科学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

<https://www.ritsumeai.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス : Beyond Borders Plaza 1・2階

びわこ・くさつキャンパス: セントラルアーク 2階

大阪いばらきキャンパス : Beyond Borders Plaza (A棟1階AN事務室内)
Room・iCommons・AN 4階SALL

<QRコード>



IV. 希望者履修科目・学部横断プログラム

1. 行政政策プログラム (Public Administration Program)
2. 海外留学について
3. 学部の交換留学制度
4. 大学間単位互換制度

1. 行政政策プログラム (Public Administration Program)

行政政策プログラム (PAP) は、重要な政策過程の現場である公務員分野への進出を目指す学生に必要な学問のうち、法律学・政治学・行政学の基礎と発展を早期に習得する履修プログラムです。4 回生時に公務員採用試験を受験できるようにするためには、3 回生終了時に受験科目についての学習を基本的に終了しておく必要があります。もちろん、公務員採用試験の受験に役立てていくためには、学部科目の体系的な受講と適切な基本書の読破を基礎におくことが重要です。またこのプログラム外の学部講義科目、特に教養、経済学・経済政策等の内容も受験科目として指定されることが少なくありません。自身で情報を収集して計画的な勉強を行ってください。

配当回生	科目名	単位	備考
2 回生以上	民法Ⅰ (契約法)	2	受講を推奨します。
	民法Ⅱ (金融法)	2	
	行政法Ⅰ	2	
	国際機構論	2	
	日本政治史	2	
	比較文化論	2	
	政策評価	2	
	情報社会論	2	
3 回生以上	行政法Ⅱ	2	PAP受講者は、2 回時に前倒しで受講登録を許可します。
	現代政治理論	2	
	行政学Ⅰ	2	
	行政学Ⅱ	2	
	政治意識論	2	
	地域政策論	2	
	債権法	2	

(1) 登録方法

- 申請期間：1 回生の 3 月下旬 (2 セメスター末) に申請を受け付けます。政策科学部で受講の可否を判断し、可否を発表します。詳細は、「manaba+R」を確認してください。
- 定 員：50 名程度
- 対 象：2 回生

(2) その他

全ての科目を一年間で一度に登録するのではなく、4 回生までの計画的な履修を心がけてください。詳細は毎年度発行される「履修・登録の手引き」を参照してください。

2. 海外留学について

2.1 海外留学を計画するにあたって

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保護者と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集・選考を行いますので、日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定試験の受験など、早めの準備を心掛けましょう。なお、長期留学に参加する場合は、その時期や期間、履修状況によって4 年間で卒業ができなくなる可能性があります。事前に学部事務室または学びステーションで相談したうえで、海外留学の計画を行いましょう。

2.2 海外留学プログラムの種類

	全学募集の海外留学プログラム	各学部・教学機関の海外留学プログラム
主催	国際教育センター	各学部・教学機関
対象	全学部学生（一部を除く）	所属学部学生（一部他学部生も可）
区分	留学を通じて「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的・目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、以下の通り、留学の「ねらい」ごとに海外留学プログラムを類型しています。 〈留学の「ねらい」〉 ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	学部教学に関連した内容のプログラムが展開されています。 学部によっては、中期間/長期間のプログラムも提供されています。 詳細は、主催する学部または教学機関にお問い合わせください。

* 各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどで確認してください。

* 上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

2.3 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、政策科学部事務室に相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

* 1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 11. 留学」を参照してください。

* 2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 4. 受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同学位プログラム（DUDP）は除く）。

* 3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 6. 成績および単位授与・認定」を参照してください。

* 4：休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 9. 休学」を参照して、事前に政策科学部事務室に相談してください。

2.4 大学で得られる海外留学に関する情報について

①全学募集の海外留学プログラムについては「海外留学プログラムホームページ」、学部・教学機関の海外留学プログラムについては各学部・教学機関のホームページから確認してください。

②Beyond Borders Plaza（BBP）では、海外留学に役立つ情報発信や企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plazaのホームページから確認してください。

〈海外留学プログラムホームページ、Beyond Borders Plazaホームページには以下のQRコードからアクセスできます〉

【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plazaホームページ】



③国際教育センター

・「Study Abroad Guide」などのパンフレットを配布しています。

・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。

・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

3. 学部の交換留学制度

国際教育センターが提供する留学プログラム以外に、学部独自の交換留学制度があります。以下の大学と協定を結び、交換留学を実施しています。

- 東北財経大学公共管理学院（中国・大連）
- 国民大学校社会科学大学およびグローバル・人文・地域大学（韓国・ソウル）
- 韓国海洋大学校国際大学（韓国・プサン）
- マヒドン大学教養学部（タイ・ナコンパトム）
- ベルガモ大学（イタリア・ベルガモ）

詳細は別途、募集要項にて案内しますが、現在の交換留学制度の概略は以下の通りです。

- ①期間：1学期間（春学期、または秋学期）、1年間のいずれか
- ②応募には、一定のGPA（学業成績）を要求。
- ③現地語、あるいは英語で学ぶ場合は、一定の語学力を要求あるいは推奨。
- ④対象：2回生以上

これらの留学制度を希望する場合は、計画的に履修を行い、目標とするGPA、語学レベルに到達するよう努力することを推奨します。また、募集説明会の案内は、manaba+Rなどにてお知らせしますので、入学時より各自情報を収集してください。なお、留学中の学籍、留学中に修得した単位の認定等は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 6. 成績および単位授与・認定」を参照してください。

4. 大学間単位互換制度

4.1 大学コンソーシアム 京都単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、京都地域を中心とする他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。文化、芸術、政治、経済、自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されており、皆さんの幅広い関心と興味に応じて、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

(1) 主なスケジュール

- 出願の詳細発表（3月下旬）：manaba+Rにて案内。
※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと
- 履修希望科目の出願（3月末から4月初めの数日間のみ＜追加募集なし＞）：指定のWEB上から、毎年度合計2科目まで出願可
- 履修許可発表（4月下旬）：manaba+Rで発表、履修許可された科目は受講登録制限外で登録
- 科目開設大学への履修手続き（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- 科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能
- 成績発表（3月上旬）：CAMPUS WEBにて発表

(2) 単位認定

- 認定時期：秋学期
- 認定される区分：「自由科目」に認定（卒業に必要な単位に算入されない）
- 認定される科目名：科目によって異なります。詳細は、出願の詳細発表時に確認してください。
- 評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

4.2 立命館アジア 太平洋大学(APU) 国内交流プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

(1) 国内交流プログラム

①制度の概要

半年（春学期／秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- | | |
|------------|--------------------|
| 10月頃／4月頃 | 募集ガイダンス |
| 11月／5月頃 | 交流プログラムへの出願 |
| 12月／7月頃 | 履修者許可発表および許可者ガイダンス |
| 3月下旬／9月中旬頃 | 出発 |
| 4月／9月下旬頃 | APUで履修開始 |

③単位認定

- 認定時期：派遣終了翌学期
- 認定される区分：政策科学部の指定による
- 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

(2) サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏集中講義）科目を受講できるプログラムです。

受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- 6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- 7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- 8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏集中講義）科目受講期間
- 9月上旬頃 APUで成績発表
- 9月中旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- 認定時期：春学期
- 認定される区分：政策科学部の指定による
- 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

(3) 詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、APU国内交流プログラムサイトにて案内します。

V. 大学院進学・資格取得

1. 大学院進学について
2. 政策科学部で取得できる資格（社会調査士）

1. 大学院進学について

1.1 政策科学研究科について

大学院政策科学研究科は、2年間の博士課程前期課程と3年間の博士課程後期課程に分かれています。

入学定員は、博士課程前期課程40名、博士課程後期課程15名です。

1.2 政策科学研究科の人材育成目的

政策科学研究科博士課程前期課程では、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請へ応えるという目的を達成するため、そこに学ぶ者について、現代社会が直面する政策課題を正確に理解し、適切な解決策を創造するために不可欠な研究能力の育成と実務能力のステップアップを目指しています。そして、政策科学の研究を通じて社会の諸問題に取り組むより高い能力を身につけた人材を輩出することを、本課程の目標としています。

1.3 政策科学研究科が求める人材（アドミッション・ポリシー）

政策科学研究科博士課程前期課程では、現代社会が直面する政策課題を正確に理解し、適切な解決策を創造するために不可欠な研究能力の育成と実務能力をステップアップさせるという教育目標・人材育成目標を掲げていることから、次のような学生の入学を望んでいます。

- ①社会の問題について、広く興味を有し、
- ②それらの諸問題の解決策を追求することを欲し、
- ③多角的なアプローチにより、既存のディシプリンを刷新しうる柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、
- ④論理的思考力に優れた諸君

1.4 政策科学研究科の入学試験

博士課程前期課程への大学院進学希望者を対象として、一般入学試験や学内進学入学試験などの試験が設定されています。詳細については、毎年度の入学試験要項や大学院進学説明会等にて確認してください。

1.5 大学院進学にあたって

大学院進学を希望する者は、小集団科目の担当者等に相談する、在籍院生に聞く、大学院説明会に出席する、リーフレット等で調べるなど早めに十分な情報を収集し、受験準備をしておくことを勧めます。

特に、修得単位数や成績GPAが出願資格で定められている入学試験については、低回生時から準備しておくことが必要となります。

2. 政策科学部で取得できる資格（社会調査士）

2.1 社会調査士とは

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向・社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」として「一般社団法人社会調査協会（以下、協会）」の認定を受けて取得できる資格です。

詳細な情報については、協会WEBサイト（<https://jasr.or.jp>）を閲覧してください。

2.2 資格認定要件

社会調査士の資格認定には、次の2点の要件が必要です。

- ①大学を卒業している。
- ②社会調査士科目である標準カリキュラム（A～Gの7科目のうち6科目（EとFはどちらかを選択、A～DとGは必修）の単位を修得している。

標準カリキュラム		対応する科目
A	社会調査の基本的事項に関する科目	調査分析技法入門
B	調査設計と実施方法に関する科目	政策情報処理
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	データ分析
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学
E	量的データ解析の方法に関する科目	社会調査法
F	質的な分析の方法に関する科目	フィールド調査法
G	社会調査の実習を中心とする科目	地域環境調査Ⅰおよび地域環境調査Ⅱの両方を合わせてG科目とみなす

※各標準カリキュラムに対応して1科目のみ修得すればよい（ただし、G区分は2科目の取得を合わせてG科目とみなされる）。

※各年度の開講科目については、認定申請中のため、毎年manaba+Rにて正式に発表します。

2.3 資格申請の流れ

社会調査士資格申請手続きの詳細については、毎年12月頃にmanaba+Rにてお知らせします。

◇資格申請の流れ（2025年3月現在の予定）

- ①卒業該当回生の12月頃に社会調査士申請手続方法をmanaba+Rで連絡
 - ②【事前申請】「社会調査士事前申請書」に必要な事項を記入し、指定期日までに学びステーションに提出
 - *事前申請（事前申請書の提出）がない学生は本申請を行えません。
 - ③3月の卒業可否発表時、資格認定要件を満たしていることを各自で確認
資格認定要件を満たしている場合【本申請】の案内及び申請時に必要な資料を案内
 - ④3月【本申請】社会調査士協会のHPにて各自でWEB申請
 - *認定書が発行・郵送される6月時点で受け取り可能な国内住所の申請が必要
 - ⑤3月【本申請】協会指定の振込先に各自で手数料振込
 - *窓口またはATMでの振込のみ（インターネット振込は不可）
 - *振込用紙の受領証は申請に必要なため大切に保管すること。
 - ⑥3月【本申請】WEB申請した際に出力した「社会調査士認定申請書」（協会所定用紙）
に必要な事項を記入・押印し、指定期日までに学びステーションに提出
 - *申請書裏面に振込用紙の受領証を添付する。
 - ⑦政策科学部で認定に必要な科目の履修状況を確認し、協会に書類を郵送
 - ⑧協会による審査・認定
 - ⑨卒業後の6月、審査・認定合格者に社会調査士協会より直接、認定証が発行・郵送される
- ※資格認定手数料・申請書の様式や種類・認定証発行手続きは協会の都合により変更となることがあります。

【付録】 CEFR Can-Do-List

【政策科学部】LGA（グローバル言語学習）のためのCEFR Can-Do-List

French, German, Italian, Russian, Spanish

		2 年次終了時（A1程度）		3 年次終了時（A2程度）	
受容	聞くこと	street level	はっきりゆっくり話されれば、最も日常的な領域（自分や友人、家族の情報、買い物、自分の住む地域の情報、仕事）でよく使われる語彙や表現が理解できる。		日常生活の具体的な事例に関する基本的な語や表現、説明を聴き取れる。
		academic level	明瞭にゆっくりと話されれば、講義に関する課題や説明を理解できる。		明瞭にゆっくり話されれば、やや複雑な講義の内容や課題が理解できる。
	読むこと	street level	案内や標識、簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われるごく短い簡単な文章を読み、理解することができる。		簡単な表現ならば、広告、パンフレット、メニュー、予定表、個人の手紙等が理解できる。
		academic level	教科書用に編集された簡単なテキストなら理解できる。また生のテキストでも、日常的なテーマで短く簡単なものなら辞書を用いて理解できる。		一般的な使用頻度の高い語彙（国際的共通語彙を含む）による短く簡単な文章が理解できる。
表出	話すこと	street level やりとり（会話への参加）	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。また家族、日課、趣味等の個人的なトピックについて（正確ではなくとも）、なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。		簡単な語彙や短い文をつないで、日常のことや身の回りのこと（人や物の紹介・説明、出来事の説明、好き嫌い、習慣、日課、過去の活動や経験、計画）について述べられる。
		academic level 発表（一人もしくはグループで行う報告など）	前もって発話することを用意した上で、日常生活の物事について、基礎的な語句や限られた構文を用いて、簡単に描写することができる。		身近な話題について、準備をすれば、短く簡単なプレゼンテーションができる。助け船を出されれば、自分の発表に対する簡単な質問に答えることができる。
	書くこと	street level	基礎的な語句や表現を用いて、メッセージカード（誕生日カード等）や、自分の趣味、関心事、週末や休暇中の出来事等、身近な事柄についての短い文、メモが書ける。		家族、生活環境、現在の生活や仕事、過去の出来事、個人的な経験について、簡単な語句や文を連ねて書くことができる。
		academic level	十分な時間をかければ、少々の文法的誤りがあっても、短い説明文や報告文を書くことができる。		「そして」「しかし」「なぜなら」等の簡単な接続詞や前置詞を用いて、やや長い説明文や報告文を論理的に書くことができる。

Chinese, Indonesian, Korean, Thai, Vietnamese

		2 年次終了時（A1程度）		3 年次終了時（A2程度）	
受容	聞くこと	street level	それぞれの言語の音声に慣れ、声調などがあることを認識できる。はっきりゆっくり話されれば、最も日常的な領域（自分や友人、家族の情報、あいさつ）でよく使われる語彙や表現が理解できる。		有気音・無気音の違いや声調の違いなどのような、微妙に異なる音声を聴き分けることができる。日常生活の具体的な事例に関する基本的な語や表現、説明を聴き取れる。
		academic level	明瞭にゆっくりと話されれば、授業に関する課題や説明が理解できる。		明瞭にゆっくり話されれば、やや複雑な講義の内容や課題が理解できる。
	読むこと	street level	音声と文字の対応関係を身に付ける。単純で簡単な内容のテキスト、また案内や標識などを理解することができる。		様々な種類の文字と符号の形態や組織を覚える。辞書を引きながら語句や文を読むことができる。
		academic level	教科書用に編集された簡単なテキストなら理解できる。また生のテキストでも、日常的なテーマで短く簡単なものなら辞書を用いて理解できる。		一般的な使用頻度の高い語彙による短く簡単な文章が理解できる。
表出	話すこと	street level やりとり（会話への参加）	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。また家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、（正確ではなくとも）なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。		簡単な語彙や短い文をつないで、日常のことや身の回りのこと（人や物の紹介・説明、出来事の説明、好き嫌い、習慣、日課、過去の活動や経験、計画）について述べられる。
		academic level 発表（一人もしくはグループで行う報告など）	前もって発話することを用意した上で、日常生活の物事について、基礎的な語句や限られた構文を用いて、簡単に描写することができる。		身近な話題について、準備をすれば、短く簡単なプレゼンテーションができる。助け船を出されれば、自分の発表に対する簡単な質問に答えることができる。
	書くこと	street level	基本語や日常的に使用頻度の高い語句を、辞書や教材を見ずに書くことができる。		家族、生活環境、現在の生活や仕事、過去の出来事、個人的な経験について、簡単な語句や文を連ねて書くことができる。
		academic level	十分な時間をかければ、少々の文法的誤りがあっても、短い説明文や報告文を書くことができる。		簡単な接続詞などを用いて、やや長い説明文や報告文を論理的に書くことができる。

【政策科学部】EPS（英語学習）のためのCEFR Can-Do-List

英語			B1 Independent User (Threshold) Approx. TOEFL ITP® test>460	B2.1 Independent User (Vantage) Approx. TOEFL ITP® test>543
受容 Understanding/ Reception	聞くこと Listening	Street level	外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 I can understand the gist of explanations of cultural practices and customs that are unfamiliar to me, provided they are delivered in slow and clear speech involving rephrasing and repetition.	自然な速さで標準的な英語で話されていれば、テレビ番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解することができる。 I can understand the main points of a conversation between native speakers in television programmes and in films, provided they are delivered at normal speed and in standard English.
		Academic level	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。 I can understand the main points of discussions around me, provided speech is clearly articulated and at a moderate speed.	トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。 I can follow extended speech and argument, provided the topic is reasonably familiar.
	読むこと Reading	Street level	様々な活動の方法、申込書の記入のしかた、ものの組み立て方など、簡潔に書かれた手順を理解することができる。 I can understand clearly written instructions (e.g. for doing activities, for filling in a form, for assembling things).	難しい部分を読み返すことができれば、自分の専門分野の報告書・仕様書・操作マニュアルなどを、詳細に理解することができる。 I can understand in detail instruction manuals, or reports written for my own field of work, provided I can reread difficult sections.
		Academic level	パラグラフやエッセイなどの構成を意識ながら学術的なテキストを読むことができる。辞書を用いて、図表と関連づけながらテキストを理解することができる。インターネットや参考図書などを調べて、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。 I can find the basic paragraph/ essay structure (topic sentence/supporting sentences; thesis statement) in academic textbooks. With the use of a dictionary, I can understand and relate any accompanying figures or tables to the text. I can search the internet or reference books, and obtain school- or work-related information.	現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。文章と文章の関係を見つけ、学術的なテキストや論文記事を理解することができる。 I can read texts dealing with topics of general interest, such as current affairs, and can compare differences and similarities between multiple points of view. I can understand the connection between the sentences.
表出 Expression/ Production	話すこと Speaking	Street level やりとり (会話への参加) Spoken interaction	身近なトピック（学校・趣味・将来の希望）について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。 I can express opinions and exchange information about familiar topics (e.g. school, hobbies, hopes for the future), using a wide range of simple English.	ある程度なじみのあるトピックなら、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。 I can discuss the main points of news stories I have read about in the newspapers/ on the internet or watched on TV, provided the topic is reasonably familiar to me.
		Academic level 発表（一人で行う報告など）	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、なじみのあるトピックや自分に関心のある事柄について語ることができる。簡単な質疑応答ができる。	ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前である程度流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。
		Spoken production/ Spoken interaction	I can talk about familiar topics and other topics of personal interest, without causing confusion to the listeners, provided I can prepare my ideas in advance and use brief notes to help me. I can ask and answer simple questions.	I can give a prepared presentation with reasonable fluency, stating reasons for agreement or disagreement or alternative proposals, and can answer a series of questions.
	書くこと Writing	Street level	自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりあるかたちで、描写することができる。	自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レターなどビジネス文書を、感情の度合いをある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。
		Written production/ Written interaction	I can write a description of substantial length about events taking place in my immediate environment (e.g. school, workplace, local area), using familiar vocabulary and grammar.	I can write business documents (e.g. email, fax, business letters), conveying degrees of emotion, in a style appropriate to the purpose, provided they are in my field of study.
		Academic level Written production/ Written interaction	パラグラフと学術的なエッセイの構造を理解することができ、論旨の明快な短いレポートを書くことができる。適切な学術レポートの形式の原則を理解し、基礎レベルの研究レポートのアブストラクトを書き、妥当なタイトルをつけることができる。講義のメインポイントのノートが取れる。 I can understand about paragraph and academic essay structure and can write a clear and supported short essay. I can write a basic research paper abstract with a suitable title. I can understand and can perform the basics of in-text citation and referencing. I can take notes on some of the main points while listening to lectures.	そのトピックについて何か自分が知っていれば、多くの情報源から統合して情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えや根拠を示しつつ、ある程度結束性のあるエッセイやレポートなどを、幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、書くことができる。適切な学術レポートの形式を理解し、首尾一貫したアブストラクトを書き、魅力的なタイトルをつけることができる。講義のメインポイントの詳細なノートが取れる。 I can write reasonably coherent essays and reports using a suitable range of vocabulary and sentence structures, synthesizing information and arguments from a number of sources, provided I know something about the topic. I can write a coherent research paper abstract with an interesting title. I can understand and include in-text citation and referencing. I can take more detailed notes on most of the main points while listening to lectures.

B2.2 Independent User <i>(Vantage)</i> Approx. TOEFL ITP® test>585	C1 Proficient User <i>(Effective Operational Proficiency)</i> Approx. TOEFL ITP® test>627
非母語話者への配慮として言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。 I can follow a variety of conversations between native speakers in television programmes and in films, which make no linguistic adjustments for non-native speakers.	構成が明瞭でなく、事柄の関係性が暗示されているだけで明示的になっていないときでも、長い話を理解できる。また、特別に努力しなくてもテレビ番組や映画を理解することができる。
明快な発音で適当な速さで話されていれば、現代社会や専門分野のトピックについて、話者の意図を理解することができる。 I can understand the speaker's point of view about topics of current common interest and in some specialized fields, provided it is delivered at a reasonable speed and articulated clearly.	I can understand extended speech even when it is not clearly structured and when relationships are only implied and not signaled explicitly. I can understand television programmes and films without too much effort.
記事やレポートなどやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。 I can scan through rather complex texts e.g. articles and reports, and can identify key passages. I can adapt my reading speed and style, and read accurately, when I decide closer study is worthwhile.	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる。自分の関連外分野での専門的記事や長い技術的説明書も理解できる。
自分の専門分野の論文や資料から、時に辞書を使って、必要な情報や論点を読み取ることができる。テキストによる情報に基づき、推論ができる。 I can extract necessary information and the points of the argument from more advanced articles and reference materials in my specialized field, only occasionally consulting a dictionary. I can make inferences based on information from the text.	I can understand long and complex texts, appreciating distinctions of style. I can understand the structure of reasoning and argumentation in academic papers. I can understand specialised articles and longer technical instructions, even when they do not relate to my field.
一般的な分野から、文化、学術など、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。 I can actively engage in conversations on a wide range of topics from the general to more specialized cultural and academic fields and express my ideas accurately and fluently.	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。社会上、仕事上目的に合った言葉遣いが意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を他の話し手の発言にうまくあわせることができる。
ディベートなどで、社会問題や時事問題に関して、補助的観点や関連事例を詳細に加えながら、自分の視点を明確に展開することができ、話を続けることができる。要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができる。 I can clarify my viewpoints, and maintain conversation in debates on social issues and current affairs, integrating sub-themes or related cases. I can give a fluent presentation, focusing on both the main points and related details.	複雑なトピックを、派生的問題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら適切な結論でまとめ上げることができる。また適切な質疑応答を行い、場をリードすることができる。
自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。 I can write clear, detailed reports and articles which contain complicated contents, considering cause/effect and hypothetical situations, provided they are in my specialised field and of personal concern.	いくつかの視点を示して、明瞭な構成で、かなり詳細に自己表現ができる。自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題について書くことができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。
自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。適切な学術レポートの形式に則り、首尾一貫したアブストラクトを書き、魅力的なタイトルをつけることができる。講義の詳細なノートが取れる。 I can write clear, detailed reports and articles which contain complicated contents, considering cause/effect and hypothetical situations, provided they are in my specialised field and of personal concern. I can include in-text citation and referencing, a coherent abstract and an informative and interesting title. I can take detailed notes while listening to lectures.	いくつかの視点を示して、明瞭な構成で、かなり詳細に自己表現ができる。自分が重要だと思う点を強調しながら、研究論文で複雑な主題について書くことができる。読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。適切な学術レポートの形式に則り、情報量の多いアブストラクトを書き、魅力的なタイトルをつけることができる。講義の詳細なノートが取れる。

回生	学生証 番 号									-	フリガナ	
											氏 名	